

# リアホナ

表紙の記事—

キリストを信じる信仰を求める、  
12ページ

思い出のクリスマスプレゼント、8ページ

ジョセフ・スミスの日記から学ぶ、32ページ

降誕についてどのくらい知っていますか？  
「フレンド」8ページ

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)

大管長会:ゴードン・B・ヒンクレイ、トーマス・S・モンソン、ヘンリー・B・アイリング

十二使徒定員会:ボイド・K・バックナー、L・トム・ベリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オクス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホルランド、ディーラー・F・ウークト、ドルス、デビッド・A・ベドナー、クエンティン・L・クック

編集長:ジェイ・E・ジェンセン

顧問:ゲアリー・J・コールマン、菊地良彦、ジェラルド・N・ランド、W・ダグラス・シャムウェー

実務運営ディレクター:デビッド・L・フリッシュニクト

編集ディレクター:ピクター・D・ケーブ

主任編集者:ラリー・ヒラー

グラフィックディレクター:アラン・R・ロイボーク

編集主幹:R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐:ジェニファー・L・グリーンウッド

副編集長:ライアン・カー、アダム・C・オルソン

編集補佐:スーザン・バレット

編集スタッフ:クリスティー・バンス、リンダ・ステール・クーパー、デビッド・A・エドワーズ、ラリー・ポーター、ガート、キャリー・カستن、ジェニファー・マディ、メリッサ・メリル、マイケル・R・モリス、サリー・J・オデカーク、ジュディス・M・バラード、ビビアン・ポールセン、ジョシュア・J・パーキー、キンバリー・リード、リチャード・M・ロムニー、ドン・L・サール、ジャネット・トーマス、ポール・バンデンバーグ、ジュリー・ワテデル

主任秘書:ローレルトイスチャー

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:スコット・バン・カンペン

制作主幹:ジョン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ:カリ・R・アロヨ、コレット・ネバカー・オース、ハワード・G・ブラウン、ジュリー・バーテッド、トーマス・S・チャイルド、レジナルド・J・クリステンセン、キャスリーン・ハワード、エリック・P・ジョンソン、デニス・カービー、ギーニー・J・ニコルソン、ランドール・J・ピクストン

印刷ディレクター:クレーグ・K・セジウィック

配送ディレクター:ランディー・J・ベンソン

日本語版翻訳課長:ヘンリー・W・サブストローム

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙」でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話:03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会 〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30 電話 03-3440-2351

定 価 年間予約/海外予約 1,800円(送料共) 半年予約 1,200円(送料共) 普通号/大会号 200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。 Room 2420, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150-3220, USA 電子メール: liahona@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。 アイスランド語、アラビア語、アルメニア語、イタリア語、インドネシア語、ウクライナ語、ウルドゥー語、英語、エストニア語、オランダ語、韓国語、カンボジア語、ギリシャ語、キリバス語、クアアチア語、サモア語、シンハラ語、スウェーデン語、スペイン語、スロベニア語、セブアン語、タイ語、タガログ語、タヒチ語、タミル語、中国語、チェコ語、テルグ語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ブルウエー語、ハイチ語、ハンガリー語、ヒスラマ語、ヒンディー語、フィジー語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ポルトガル語、マルシャル語、マダガスカル語、モンゴル語、ラトビア語、リトアニア語、ルーマニア語、ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。) ©2007 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷:日本 「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において臨時に、また非営利目的に使用する場合は複製することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール——cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。 「リアホナ」は、教会のホームページwww.lds.org(英語)に様々な言語で掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をクリックしてください。その他の言語は言語名をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada:

December 2007 no. 12 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150, USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

一般

2 大管長会メッセージ——

わたしたちの幼い子供たち

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長

18 モンゴル——草原に芽吹いた信仰

ドン・L・サール

25 家庭訪問メッセージ——

慈愛を実践することによって、

神の御手に使われる者となる

26 あなたがたの間で

記録を記さなければならない

32 ジョセフ・スミスの日記

マーク・アッシュハースト・マギー、

アレックス・スミス

43 末日聖徒の声

わたしがもらった人生最高の贈り物

コンスエロ・コネーサ・レオナー

母からのクリスマスプレゼント

ベティ・レバロン・モスタート

忘れられないクリスマス

ジェリー・O・トンプソン

御父はほんとうにわたしを愛しておられたのでしょうか?

キャロル・C・ワッツ

新兵 ヘニー・ラスムッセン

48 読者からの便り



32 ジョセフ・スミスの日記

表紙

表紙——「博士たち」ウィリアム・フレデリック画、1903年ごろ。©2007 Providencecollection.com. 著作権所有。画像番号00466。複写は禁じられています 裏表紙——写真/ジョン・ルーク

「フレンド」表紙

絵/ジム・マドセン

家庭の夕べのためのアイデア

以下のアイデアは、家庭だけではなくクラスでのレッスンにおいても役立てることが出来ます。皆さんの家庭やクラスに合わせて変更を加えてもよいでしょう。

「主イエス・キリストへの信仰を見いだす」12

ページ——この記事の

中でロバート・D・ヘイルズ長老が引用した聖句を幾つか読みます。また、家族の一人一人にイエス・キリストへの信仰を強めてくれるクリスマスの歌を挙げてもらいます。家族でそれらの歌を歌います。これらの聖句や歌が、救

い主についてどんなことを教えているか意見を出し合ってもらいましょう。

「ジョセフ・スミスの日記」32

ページ——前の週に起こった印象的な事柄を家族に紹介

してもらいます。その出来事を日記に書いて

か尋ねます。日記を書くことの大切さを示す

ために、記事の第2段落を読んで

ください。日記にどんなことを書くことができるか話し合ひましょう。

日記はわたしたちだけでなく、家族と将来の世代にとっても大切なことを説明します。



こんげつごう  
 今月号のどこかに隠れている  
 トンガ語のCTRリングをさがしながら、  
 イエス・キリストの再臨に備えることによって、  
 どのように正義を選ぶことが  
 できるかを考えてください。



F10 クリスマスのお客様



F14 ココア事件

## 青少年

- 8 最高のクリスマスプレゼント
- 12 主イエス・キリストへの信仰を見いだす  
十二使徒定員会 ロバート・D・ヘイルズ長老
- 17 クリスマスを分かち合う  
ダイアナ・メリナ・アルボルノス・ディアス
- 24 ポスター——もろびと、こそりて
- 38 地上の預言者 ジェード・スワーツバーグ
- 40 質疑応答——  
福音の道にしっかりととどまれるよう、  
証を強めるには  
どうしたらよいでしょうか。

### 17 クリスマスを分かち合う

### 8 最高のクリスマスプレゼント



## フレンド

- F2 大管長会から世界中の子供たちへのクリスマスメッセージ——  
救い主の降誕
- F4 分かち合いの時間——  
もっともすばらしいおくりもの  
エリザベス・リックス
- F6 スペンサー・W・キンボールだいかんちょうの  
しょうがいから——しんけんのかぎをもつ  
F8 イエスさまのたんじょうに  
かかわった人びととできごと  
パット・グラハム
- F10 クリスマスのお客様  
グウェン・S・ジョーンズ
- F13 特別な証人——  
なぜ預言者に従うことは大切なのでしょう。  
ディーター・F・ウークトルドルフ長老
- F14 ココア事件 メラニー・マークス
- F16 色をぬりましょう

## 今月号に採り上げられているテーマ

Fは「フレンド」の略

愛	8, 44, 46	初等協会	F4
証	40	神権	F6
預言	8, 12	信仰	12, 18
イエス・キリスト	8, 12, 25, F2, F4	親切	8, 17, 44
祈り	12, 46	スミス, ジョセフ	12, 32
家族	2, 8, 17, 38	聖文	18, 43, F8
家庭の夕べ	1	知恵の言葉	F14
奇跡	8	伝道活動	8, 17, 18, 47, F6, F14
記録を残す	26, 32	日記	32
キンボール,		奉仕	
スペンサー・W	F6		8, 17, 44, 46, F10
クリスマス		モルモン書	43
8, 17, 24, 43, 44, 45,		預言	12
46, 47, F2, F4, F8, F10		預言者	
最初の示現	12, 32		12, 32, 38, F6, F13
慈愛	8, 17, 25, F10	喜び	F10

【地上の預言者】38ページ——ゴードン・B・ヒンクレー大管長の写真を見せます。現代に預言者がいることがどうして大切なのか話し合います。ジェードの父親の話をしてください。その後で、生ける預言者について信仰を持つと、福音に対する証がどのように強められるかについて皆で意見を述べ合います。

【クリスマスのお客様】F10ページ——物語を読み、特に愛を必要としている人がいるかどうか家族の一人一人に考えてもらいます。その人たちに思いやりを示す方法を考えてみましょう。例えば、家庭の夕べに招待したり、特別なカードを作ったりするこ

とができます。これからの1週間で、その人たちの一人に手を差し伸べるために家族で目標を決めましょう。

【ココア事件】F14ページ——まず、家族にニコルが直面した難しい状況を説明します。自分たちに起こるかもしれない、似たような状況を考えてもらいます。それぞれの状況をどう切り抜けるかロールプレーをします。最後に知恵の言葉の約束(教義と聖約 89:18-21参照)を復習しましょう。



# わたしたちの 幼い子供たち

ゴードン・B・ヒンクレー大管長

かつて、妻とわたしはまだ幼かった数人の孫を連れてサーカスを見に行ったことがあります。わたしは、空中ブランコの曲芸師よりも、孫たちやそこにいた大勢の子供たちに興味を引かれたことを覚えています。子供たちが代わる代わる笑い、目の前で繰り広げられる曲芸に目を皿のように入れて見入る様子を驚嘆の念をもって眺めていたものです。そして、世の中の生活とその目的を絶えず新鮮なものにしてくれる子供たちの不思議な力のことを考えました。そのようなサーカスのざわめきの中でさえも好奇心を駆り立ててくる子供たちの様子を見ながら、わたしの心は第三ニーファイに記録されているあの美しく感動的な光景に飛んでいました。復活した主は子供たちを抱き寄せ、涙を流し、祝福を与えてこう言われたのです。「あなたがたの幼い子供たちを見なさい。」(3ニーファイ17:23)

今日の世に見られる偉大な善と大きな悪が、過去の子供たちに対する養育の良い結果と悪い結果であることは明らかです。同様に、次の世代を担う若人をどのように訓練するかによって、数年後の世界が決まります。将来のことを案じているのなら、自分の子供の育て方に目を向けてください。賢明にも、箴言の著者はこう宣言しています。「子をその行くべき道に従って教えよ、そうすれば年老いても、それを離れ

ることがない。」(箴言22:6)

少年のころ、わたしたち家族は夏になると果樹園で生活しました。わたしたちはたくさんの桃を育てました。父は、わたしたちを農業大学で開かれた枝の剪定の講習会に連れて行ってくれました。そして1月と2月には、毎週土曜日に果樹園へ行き、枝の剪定をしました。その経験から、はさみやのこぎり<sup>せんてい</sup>で枝を適切に刈り込めば、たとえ地面が雪に覆われ、木が枯れたように見えても、春になり夏になったときに太陽の光が実によく当たるように木の形を変えられるということを学びました。また、9月にどのような実を収穫できるかを2月に予測できるということも知りました。

E・T・サリバンは、かつて次のような興味深い言葉を残しています。「神はこの世で大いなる業<sup>わざ</sup>を行い、不正を改めようとされるときに、特別な方法をお使いになる。神はこの目的のために地震や雷を送られたりはしない。ただ平凡な家庭の無名の母親に、か弱い赤ん坊をお授けになるだけである。そして御自身の思いを母親の心に託され、母親はそれを子供に伝える。そして辛抱強く待たれる。この世で最も大きな力を持つのは、地震でもなければ、雷でもない。それは赤ん坊である。」<sup>1</sup>

またこれらの赤ん坊は、ほとんどの場合、育て方次第で善の力ともなれば、悪の力ともなり



次の世代を担う若人を  
どのように  
訓練するかによって、  
数年後の世界が  
決まるのです。  
将来のことを  
案じているのなら、  
自分の子供の育て方に  
目を向けてください。

ます。主は単刀直入に次のように述べておられます。「わたしはあなたがたに、あなたがたの子供たちを光と真理の中で育てるようにと命じた。」(教義と聖約93:40)

#### 4つの大切な責任

皆さんがよく承知している簡単で分かりやすい事柄をあえて提案します。そのような事柄は、得てして実行されずにいることが非常に多いからです。子供たちに関してなござりにできない4つの責任があります。それらは、(1)子供を愛すること、(2)子供を教えること、(3)子供を敬うこと、(4)子供と祈り、また子供のために祈ることです。

以前、次のように問いかけるバンパーステッカー(訳注——車の後部にはるシール)をよく見かけました。「今日、お子さんを抱き締めましたか。」親の愛を感じている子供たちは、何と幸福で、祝福されていることでしょうか。その温かさや愛が、後に甘い実を結びます。ほとんどの場合、現代社会を風靡している荒々しさは、かつての子供たちに向けられた荒々しさの見返りなのです。

わたしの育った地域社会には世界の縮図と呼ばれるほどいろいろな人がいました。人々の結束は固く、恐らくだれもが町中の人々のことをよく知っていたと思います。わたしたちは互いに愛し合っていましたが、一人だけどうしても好きになれない人がいました。ここで告白しますが、当時わたしは彼をひどく嫌っていました。その後わたしは悔い改めましたが、今振り返ってみてもそのときの思いがいかに強かったかがよく分かります。なぜこれほどまでに彼を毛嫌いするようになったのでしょうか。その訳は、彼は少しでも気に入らないことがあると、怒りに任せて、皮ひもであろうと棒であろうと手もとにあるものを取って自分の子供たちをたたいたからです。

わたしがそのように感じたのは、恐らくわたしの育った家庭環境のせいでしょう。父は、罰を受けるに値する悪いことをしたときでも、子供たちに罰を与えるのにいかなる道具も用いませんでした。ただ穏やかに家族を論じたのです。

わたしは後に、ひどく嫌っていたその男性が、自分が責任をもってこの世に迎え入れた子供に対して、粗暴な態度を

もってしか接することのできないたくさんの親たちの一人にすぎないことが分かりました。また、子供時代の記憶に残っているこの男性以外にも、世の中には何千という児童虐待者がいることも知りました。そのことは、ソーシャルワーカーや大病院の救急職員、大都市の警官や判事などがよく知っているはずで、あの悲劇的な光景は、殴る、ける、たたく、さらには幼い子供に性的暴行を加えるといった、世界中で起きている行為の一つにすぎなかったのです。また、子供たちをだましてポルノ写真を撮ったりする悪意に満ちた男女のグループもあります。

このような忌まわしいことについていつまでも話し続けるつもりはありません。ただ、次のことを述べたいと思います。つまり、自分はキリストに従う、自分はこの教会の会員であると公言しながら、先に述べたような行いをする人は神を冒瀆しており、御子の教えを否定しています。イエスは、罪や汚れのない子供たちの模範をわたしたちに示しながら、次のように言われました。「これらの小さい者のひとりをつまずかせる者は、大きなひきょうすを首にかけられて海の深みに沈められる方が、その人の益になる。」(マタイ18:6) 人類の救い主のこの言葉以上に、子供を虐待する人にあてた強烈な非難の言葉があるでしょうか。

#### まずは家庭から

皆さんは、この世に愛の精神が増し加わることを願うでしょうか。そのように思うならば、まず皆さんの家庭の中から始めてください。皆さんの幼い子供たちに目を向け、天の御父のもとから遣わされた彼らの内にある神の力を認めてください。

ブリガム・ヤング大管長(1801-1877年)は、かつて次のように語りました。「子供は母親の笑顔が好きですが、しかめ顔は嫌いです。母親の皆さんに申し上げます。子供が悪にふけることのないようにしてください。ただし、それと同時に、彼らに優しく接することも忘れないでください。」<sup>2</sup>

また、さらに次のようにも述べています。「主への愛と畏れのうちに子供を育てなければなりません。子供たちの気質や



少年のころ、  
はさみやのこぎりで  
枝を適切に刈り込めば、  
たとえ地面が  
雪に覆われ、  
木が枯れたように  
見えても、  
春になり  
夏になったときに  
太陽の光が  
実によく当たるように  
木の形を変えられる  
ということを知りました。

気性を理解して、それに応じて対処してください。決して感情に任せて子供をしかるようなことがあってはなりません。子供たちに、あなたを恐れるように教えるのではなく、あなたを愛するように教えてください。」<sup>3</sup>

子供たちのしつけが必要なことは言うまでもありません。しかし、極端に厳しく、暴力を伴うしつけは、子供たちを正しい方向へ導きません。むしろ怒りを招き、屈辱感を味わわせることとなります。それでは問題の解決にはならず、問題を悪化させるだけです。それは自滅的でもあります。主が教会管理の原則について啓示された以下の偉大な言葉は、家庭管理にも同様に言えることです。

「いかなる力も影響力も、……維持することはできない、あるいは維持すべきではない。ただ、説得により、寛容により、温厚と柔和により、また偽りのない愛によ[る。]……

聖霊に感じたときは、そのときに厳しく責めなさい。そしてその後、あなたの責めた人があなたを敵視しないために、その人にいっそうの愛を示しなさい。

それは、あなたの誠実が死の縄目よりも強いことを、その人が知るためである。」(教義と聖約121:41, 43-44)

### 永続する模範

皆さんの子供たちを見てください。そして教えてください。わたしが申し上げるまでもなく、皆さんの模範以上に子供たちの心に人生の在り方を印象づけるものはありません。旧友の子供たちに会ったときに、その両親がはぐくんできた伝統が新しい世代に受け継がれているのを見ることは実に大きな喜びです。

次のような話があります。古代ローマの都で、数人の女性たちが宝石を自慢し合っていました。その中に、二人の息子を持つコルネリアという女性がいました。一人の女性が彼女に尋ねました。「あなたの宝石はどこなの。」するとコルネリアは自分の二人の息子を指して答えました。「この子供たちがわたしの宝石です。」

**皆**さんの  
子供たちを  
見てください。  
そして教えてください。  
皆さんの模範以上に  
子供たちの心に  
人生の在り方を  
印象づけるものは  
ありません。



高い  
ローマ人の  
母親は  
自分の二人の  
息子を指して  
こう答えました。  
「この子たちが  
わたしの宝石です。」  
彼女の教えを受けて  
成長したこの二人は、  
ローマ史に残る  
最も勇敢で有力な  
改革者となりました。

彼女の教えを受け、彼女の美德を学んで成長したこの二人の少年が、後にグラックス兄弟と呼ばれた、ガイウス・グラックスとティベリウス・グラックスです。二人は、ローマ史に残る最も勇敢で有力な改革者となりました。彼らの名前が世の人々に覚えられ、語り継がれるかぎり、自らの生活の模範を通して子供たちを育ててきた母親も長くその名をたたえられることでしょう。

ここで再びブリガム・ヤング大管長の言葉を読んでみましょう。「神が愛をもって皆さんに託された子供たちに、小さいときから神の言葉の重要性とわたしたちの聖なる宗教の原則のすばらしさを教えるように、絶えず注意してください。そして彼らが大人になったときに、神の言葉と神聖な宗教の原則をいつも大切に、決して真理を捨てることのないようにしなければなりません。」<sup>4</sup>

愛を注ぎ、熱心にまた忠実に教えたにもかかわらず、子供たちが意に反した成長をし、悲惨な結果へと続く不幸な道に故意に踏み込んでしまうことがあります。そのように、道を外れた子供たちを見て嘆いている両親がいます。このような人々に、わたしは深い同情を寄せると同時に、エゼキエルの次の言葉を送りたいと思います。「子は父の悪を負わない。父は子の悪を負わない。」(エゼキエル18:20)

しかし、このような例はそう度々あるわけではありません。また、このような例があるからと言って、わたしたちに神から託された神聖な責任である、愛と模範と正しい教えによって子供を育てる義務をなおざりにしてよいということにはならないのです。

わたしたちはまた、自分の子供を敬うことを忘れてはなりません。主の啓示は、わたしたちが神の子供であるのと同じように、子供たちも



「コルネリイ・メール・テ・グラッヅ」ノエル・アレ画

神の子供であると教えています。永遠の原則についての知識によれば、彼らは敬われて<sup>しか</sup>然るべき存在なのです。事実、主は子供のような清さと素直さ、また潔白さを身に付けなければ主とともに住めないことをはっきりと述べておられます。「心をいれかえて幼な子のようにならなければ、天国にはいることはできないであろう。」(マタイ18:3)

チャニング・ボラックは、皮肉めいた言葉でこう述べています。「不正を<sup>けいべつ</sup>軽蔑する青年期を思い返してみると、次のような望みを持つ人々が必ずいる。……人は生まれたときが老人で、成長するに従って若く、清く、純粋で、汚れない状態になり、最後に<sup>おきなご</sup>幼子のような純白の心で永遠の眠りに就けないものだろうか、と。」<sup>5</sup>

## 力の源

皆さんの子供たちを見てください。そして、子供たちとともに祈り、子供たちのために祈ってください。そして彼らを祝福してください。子供たちがこれから足を踏み入れようとしているところは、複雑で危険に満ちた世界です。彼らは逆境の荒海に船出しようとしているのです。自分の手もとにいるうちに、彼らが最大限の強さと信仰を得られるようにすることが必要です。また、子供たちには天から与えられる、さらに大きな力が必要です。彼らは新しい世界に適応するだけでは不十分です。世界をさらに良いものとしなければなりません。自らの生活による模範と、神を知り証<sup>あかし</sup>を持つことによってもたらされる説得の力をもって世界を引き上げるのです。彼らには主の助けが必要です。求めるならばいつでもその助けを送ってくださる力の源を知ることができるよう、子供たちが幼いときからともに祈ってください。

わたしは、子供たちの祈りを聞くのが大好きです。また、子供たちのために祈りをささげる両親に感謝しています。聖なる神権を持つ父親が、重大な決定を下そうとしている息子や娘の頭の上に手を置き、主の名と聖なる<sup>みたま</sup>御霊の導きによって父親の祝福を授ける姿を見ると、とても敬虔な気持ちになります。

すべての父親が子供を最も貴い財産とし、彼らを思いやりと愛に満ちた模範の力によって導き、そして子供が悩むときに聖なる神権の権能によって祝福を授けるならば、またすべての母親が子供たちを人生の宝石、そして永遠なる天の御父から送られた贈り物のように扱い、愛をもって、主の訓戒と知恵のうちに育てるならば、わたしたちの住むこの世界、そして社会は今と比べてどれほど美しいものとなることでしょう。

古代の預言者イザヤはこう語りました。「あなたの子らは皆、主によって教えを受け、あなたの子らの平安は深い。」(イザヤ

54:13, 欽定訳より和訳)わたしはこの言葉に次のように付け加えたいと思います。「子らの父と母の平安と喜びも深い。」

## 注

1. チャールズ・L・ウォリス編, *The Treasure Chesty* (1965年), 53
2. 『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』372-373
3. 『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』370
4. 『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』190
5. "The World's Slow Stain," *Reader's Digest*, 1960年6月号, 77

## ホームティーチャーへの提案

このメッセージをよく祈って研究した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて分かち合ってください。幾つかの例を以下に紹介します。

1. 救い主と子供たちを描いた絵を見せる。家族に、このメッセージの中でヒンクレー大管長が引用している聖句を幾つか読み、それについて話し合うように勧める。メッセージの中の事例を挙げながら聖句の説明をする。終わりに、これらの聖句がどのように自分を導いてくれたかについて述べる。

2. 水が入った容器に小さな物を落とし、水紋がどのように広がるかを見せる。「4つの大切な責任」の中から選んだ箇所を読み、両親の言動が子供たちにどのような影響を及ぼすか強調する。終わりに、このメッセージの最後の2段落を読む。

3. 教えている家族に小さな子供がいる場合、家族の中から二人を選び、一人が別の一人のすることを真似するように頼む。真似をされる人は手をたたいたり、3歩くらい歩いたり、くると背を向けたりする。別の一人が真似をした後、模範や手本を示すことの大切さについて述べる。「永続する模範」の最初の段落を読み、ローマ人の女性と彼女が子供に対して執った態度について話す。母親の模範が息子たちにどのような影響を与えたかについて話し合う。その箇所から一つか二つの引用文を紹介してもよい。模範や手本の力について証<sup>あかし</sup>を述べる。

# 最高のクリスマスプレゼント

……それは信仰を強めてくれる、心のこもった贈り物。

**ク**リスマスには贈り物をします。この習慣を通して、わたしたちはお生まれになったばかりの御子キリストに博士たちがささげた贈り物と、キリストがわたしたちに下さった贖いという贈り物を思い起こすことができます。

何を贈ろう、何がもらえるだろうと考えると、胸がわくわくします。プレゼントは大きさも形も様々ですが、最高のプレゼントは、きれいな包装紙でくるめな  
いもの、つまり奉仕や家族、信仰、証といった贈り物ではないでしょうか。

読者の皆さんから寄せられた、プレゼントにまつわる思い出を紹介します。

**お祈りを忘れていませんか** これまでで最高のプレゼントは、祖母からもらった枕カバーと、ロケット付きのネックレスです。高価なものではありませんがとても大切にしています。枕カバーにはわたしの名前が暗いところで光るように記されていて、その下に「お祈りを忘れていませんか」と書いてあります。祈らないでベッドに飛び込んだときはいつも、暗闇で光るこのメッセージが、ひざまずいて祈ることを思い出させてくれます。ロケットにはわたしの写真と救い主の絵が入っています。枕カバーは、家にいるときに祈ることを思い出させてくれます。ロケットは、学校やほかの場所にいるときに救い主のように行動することの大切さを思い出させてくれます。

アメリカ合衆国、ユタ州、ページ・1

**大管長会ディボーションナル** クリスマスの大好きな思い出の一つは、教会員になって1年半が過ぎたころに経験したことです。大管長会のクリスマスディボーションナルを聞きました。預言者の話はいつ聞いてもすばらしいのですが、クリスマスその時の話は特に感動的でした。

礼拝堂に座って預言者の言葉に耳を傾けていると、とても強く御霊を感じました。預言者の言葉は味わい深く、わたしはクリスマスの精神、隣人を愛し奉仕することの大切さを、よりよく理解することができました。何よりもその日、イエス・キリストに対するわたしの証が強められたのです。

子供のとき、クリスマスにはいつも欲しいものをもらっていました。けれども、イエス・キリストが今も生きておられて、この教会が主のまことの教会であると預言者の口から聞いたことは、わたしにとって最高のプレゼントになりました。

ウルグアイ、アルバロ・M

**手作りのカード** 収入が多い方ではないので、プレゼントは自分で作ったものを上げることにしています。今までに渡した最高のプレゼントは自分の手で作ったカードです。大好きな人のために作っていたので楽しかったです。糸や針、布、紙など、家にあるものを使って作りました。

アメリカ合衆国、ワシントン州、キャシー・W

**紙で折った星** わたしはタイ人とアメリカ人の両親のもとに生まれました。3年間、タイの隣のラオスという国に住んでいました。最初の2年は、両親が雇ったロジャナという家政婦の女性がわたしの世話をしてくれました。とてもよく面倒を見てくれましたが、ロジャナは仏教徒でしたからクリスマスにプレゼントをくれるとは思っていませんでした。

クリスマスの朝、入れ物が置いてあるのに気づきました。中には、立体的に折った小さな紙の星が少なくとも100個は入っていました。キラキラ光る青とピンクの星です。物を買うお金のなかったロジャナが、自分の子供でもないわたしのために何時間もかけて紙の星を折ってくれたのです。

時間と献身という、ほんとうにすばらしいクリスマスプレゼントをもらいました。

アメリカ合衆国、バージニア州、フェイ・H

### 家族で祝うクリスマス

教会員になる前には、クリスマスというのは皆が新しい服と靴を身に着けて、ちかちか光るカラフルな電飾を楽しむだけの季節だと思っていました。教会に入った後のある年の12月、わたしにバプテスマを施してくれた宣教師から手紙とカードをもらいました。長い手紙の中で特に印象に残ったのは次の言葉です。「クリスマスは家族と食卓を囲み、おいしい食事を共にする日です。」短い文でしたが、わたしには強く訴えるものがありました。その日、わたしは家族全員に声をかけ、おいしいクリスマスディナーを皆で一緒に食べないかと誘いました。それまで家族でクリスマスを祝ったことがなかったので、驚いたよいうな声もずいぶん聞こえてきましたが、全員が招待に応じてくれました。家族初となるこのディナーがうまくいくように、姉たちと一生懸命に準備しました。凝ったものは何一つありませんでしたが、母はとても喜んでくれました。また、皆と一緒に過ごせることに胸を躍らせていました。その年のクリスマスは、それまでで最高に楽しいクリスマスになりました。クリスマスは家族で救い主の降誕を祝う日であることを思い出させてくれた、小さなカードと手紙のおかげです。その日以来、わたしたちは家族でクリスマスをお祝いするようにしています。

ブラジル、ジェダルバ・S



「クリスマスの精神とは、愛の精神、感謝の精神、そして優しさの精神です。クリスマスの精神は、心の窓に火をともします。その窓から世の中の忙しい日常生活をのぞいてみると、物よりも人の方に関心が向いてきます。」

大管長会第一顧問 トーマス・S・モンソン管長  
「大切な贈り物」大管長会クリスマスディナー・セッション、  
2006年12月3日

### 歩くクリスマスカード

ブラジルで伝道していたときのことで。クリスマスの夜の約束が全部キャンセルになってしまったので、同僚にこう提案しました。「歩くクリスマスカードになって、近所の家を回ろう！」驚いたことに、どの家族もととても喜んでくれました。クリスマスのすばらしい賛美歌を歌い、その歌の参照聖句を読みながら、わたしはいつもとは違う、何か深いものを感じていました。救い主の愛をさらに深く理解でき、わたしたちを疑わしく見ていた近所の人たちの目に涙が光るのが見えました。家に帰って食事を終えてから、日記に次のように書きました。「今晚わたしたちは王の王の降誕を近所の人たちに伝えた。わたしたちは御霊に強められ、永遠に一つとなった。」

ブラジル、ニバウド・P

**旅先でのクリスマス** 自分の家以外の場所で過ごした初めてのクリスマスが、わたしの大好きなプレゼントになりました。両親と姉と一緒に、兄のジョシュとその家族を訪ねたときのことです。

わたしたち家族は、それまで家でクリスマスを祝っていましたが、その年、ほかのきょうだいは別の所に行く予定がありました。またジョシュとその家族が帰省できなかったことになったので、残ったわたしたちで、ジョシュ一家を訪ねることになりました。どんなクリスマスになるのか見当もつきませんでしたが、家で祝うのであればクリスマスは楽しくないだろうと思いませんでした。いつもと同じクリスマスにはならないだろうという気がしていたのです。しかも、兄の家へ向かう前に、両親と姉とわたしはお互いへのプレゼントを家で開けてしまっていました。

兄が空港まで迎えに来てくれました。4歳になる姪のキアリーがクリスマスの歌を歌いだすと、気持ちが晴れてきました。クリスマス朝、わたしは笑顔で、姪や甥たちが目を輝かせながらプレゼントを開けるのを見ていました。自分がもらえるものについてばかりを考えるのではなく、ほかの人がプレゼントを開けて喜ぶ姿に共感できるのはすばらしいことです。

アメリカ合衆国、モンタナ州、ハンナ・S

O EVANGELHO MATEUS

HINOS



### バプテスマとい う贈り物

同僚とわたしは、マーサという14歳になる女の子を教えました。バプテスマと確認の儀式を受ける用意がもう少しで済むという状態でした。あと数回で福音の勉強を一通り終えることになっていましたが、彼女は教会に出席するために日曜日の仕事を辞める必要がありました。マーサはわたしたちの伝える福音が大好きで、その教えを信じていましたが、おばさんのところで働く今の仕事を辞めれば、まだ14歳の彼女にとって新しい仕事を見つけるのは至難の業です。マーサはなかなか決断できませんでした。そこでわたしたちは安息日の祝福について教え、祈ってみるように勧めました。

クリスマスイブは雨になりました。アパートに戻る時間が迫っていましたが、わたしたちはマーサの家に寄り、声をかけて行くべきだと感じました。ドアをノックしようとした瞬間、勢いよくドアから駆け出してきた彼女がわたしたちに抱きつき、大喜びで飛び跳ねながら言いました。「もう日曜日に働かなくてもいいの！教会に行けるわ！バプテスマを受けられるのよ！」その後は雨さえも心地よく感じました。人がキリストに人生をささげる決心をするのを見るのに、クリスマスイブ以上にふさわしいときはないと感じました。わたしたちは世界で最も幸せな宣教師でした。

アメリカ合衆国、ユタ州、エリン・B

**家族** これまでにももらった最高のクリスマスプレゼントは、久しぶりに父ときょうだい全員で祝ったクリスマスです。わたしは世界中の何よりも家族を愛しています。父がとても喜んでくれたことで、わたしもうれしくなりました。

アメリカ合衆国、ユタ州、ヘザー・R

**健康という贈り物** 10月に、愛するステーキ会長が心臓まひで昏睡状態こんすいに陥ったという衝撃的な知らせを聞きました。それから数週間、ステーキの会員たちは熱心に祈りました。医師たちは大変憂慮していましたが、彼は昏睡状態を脱し、劇的に回復しました。ステーキ会長とは同じワードですが、クリスマス前のある日曜日、礼拝堂に入ったわたしは、壇上に座っている会長の姿を見て驚きました。話者の話が終わった後でステーキ会長の力を感じる事ができたと言いました。彼を見詰めているわたしの頬に涙が伝いました。ステーキ会長が再び元気になったことこそ、わたしたち全員に対するすばらしいクリスマスプレゼントだと実感しました。

アメリカ合衆国、ワシントン州  
ケイティ・B

贈り物をする方法についてもっと知りたいですか。大管長のヘンリー・B・アイリング管長による「喜びをもって与える」(『リアホナ』1996年12月号)を教会のホームページ <http://www.lds.org> で読んでみましょう。(訳注—日本語の場合は <http://www.ldschurch.jp> を開き、「教会員の方へ」「ライブラリー」「聖徒の道/リアホナ バックナンバー(1957-2003年)」の順でクリックしてください。)





こう言った。『[主を信じる者たちが]うまく言い当てたことも幾らかある。しかし、……キリストのような者が来ることは道理に合わない。』(ヒラマン16:15-18)

今の時代でもそうですが、当時、反キリストと呼ばれた反対論者の中には、救い主もその贖いも必要ないと人々を説き伏せる者がいました。サムエルの預言がついに成就して「二昼一夜がまるで一日のよう」な日が訪れたとき(ヒラマン14:4)、預言者の言葉を信じた人々の心は、どんなに大きな喜びで満たされたことでしょう。「預言者の言葉のとおり、すべてのことがことごとく成就した」のです(3ニーファイ1:20)。預言者が約束したように、新しい星が現れました。預言者の言葉を信じた人々は、救い主を受け入れ、そして従いました。

キリストが最初に降臨されたときの預言は「ことごとく」成就しました。その結果として、イエス・キリストが時の中間に来られた実在の人物だったと信じる人が世界中にたくさんいます。しかし、預言の中にはまだ成就していないものもたくさんあります。わたしたちは生ける預言者たちがキリストの再臨について預言し、証するのを耳にしています。また、現在身の回りで起こっているしるしと不思議についても彼らは証し、キリストは確かに再臨されると教えています。その言葉を信じることを選んでいるのでしょうか。それとも、こうした証や警告に背を向け、「真昼に暗闇の中を歩いて」(教義と聖約95:6)、現代の預言に照らして見ることを拒み、世の光が再び来て統治なさることを否定するのでしょうか。

### 信仰を見いだす

わたしはこれまでの生涯で、キリスト教の標準を重んじる、善良で寛大な人に数多く出会ってきました。しかし、その中にはキリストが生きておられること、また、世の救い主であられ、主の教会が回復されたことに対する信仰に欠ける人もいます。預言者の言葉を信じないために、この世で福音を学び、救いをもたらす儀式を受けるといふ喜びにあずかっていないのです。

ある日、とても親しくしている友人が、わたしに気持ちを打ち明けてこのように尋ねました。「ヘイルズ長老、わたしは信じたいたんです。いつもそう願ってきました。でも、そのためにはどうしたらいいのですか。」

使徒パウロはこのように書いています。「したがって、信仰は聞くことによるのであり、聞くことはキリストの言葉から来るのである。」(ローマ10:17)クリスマスの時期であろうとなかろうと、皆さんがこの話を読むこと自体が、神の言葉を聞くと

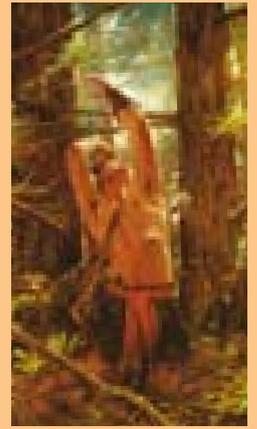
いうことです。イエス・キリストへの信仰を見いだすための第一歩は、主の僕である預言者の口から語られる主の言葉に心を動かされることです。しかし、その場限りでは不十分です。それだけではわたしたちは何も変わりません。自分にできることを行わなければならないのです。聞くためには、能動的な努力が必要です。教えを真剣に受け止めてよく考え、心の中でよく思い計らなければなりません。預言者エノスが経験したように、人から聞いた福音の証を「[わたしたちの]心に深くしみ込ませる」(エノス1:3)のです。エノスが信仰を築いたときの意義深い経験を振り返ってみましょう。

まず、エノスは福音の真理を父親から聞きました。次に、「永遠の命と聖徒たちの喜び」に関する父親の教えを心に深くしみ込ませました(エノス1:3)。第3に、その教えが真実かどうか、そして自分が造り主の前においてどのような立場にあるのかを知りたいと思い、その願いを胸に満たしました。エノスは、「わたしの霊は飢えを感じた」と言っています(エノス1:4)。エノスはこのように霊的な飢えを強く感じたため、救い主の次の約束を受けるにふさわしい者となりました。「義に飢え渴いている人々は皆、幸いである。彼らは聖霊に満たされるからである。」(3ニーファイ12:6)第4に、エノスはこう記録しています。「わたしは造り主の前にひざまずき、自分自身のために熱烈な祈りと懇願をもって造り主に叫び求めた。わたしは一日中造り主に叫び求めた。また夜になっても、声が天に届くように、まだ大きな声を上げていた。」(エノス1:4)簡単なことではありませんでした。すぐに信仰が得られたわけではありません。その証拠に、エノスはこの祈りの経験を「神の前で味わった苦闘」と表現しています(エノス1:2)。しかし、ついにエノスは信仰を得ました。聖霊の力によって、自分自身の証を得たのです。

祈りをもって神の前で自分なりの苦闘をしないかぎり、エノスのような信仰を見いだすことはできません。苦闘する価値があると証します。これらのことを真剣にたゆまず行うなら、キリストが弟子たちに語られた次の言葉が皆さんの人生の中で成就します。「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。」(マタイ7:7)

### 信仰を通して力を得る

イエスを信じる信仰を見いだすと、天の御父はその信仰を強めさせていただきます。逆境を経験するなど、様々な形で信仰が強められていくのです。わたしたちの信仰は、神に近



祈りをもって  
神の前で  
自分なりの  
苦闘をしないかぎり、  
エノスのような信仰を  
見いだすことは  
できません。  
キリストが  
弟子たちに語られた  
次の言葉は  
皆さんの人生の中で  
成就します。  
「求めよ、そうすれば、  
与えられるであろう。」

づきたいという心からの望みと、神が重荷を代わりに負ってくださり、「わたしたちはどこから来たのか」「死すべき体を持ってこの世にいるのはなぜか」「地上での生活を終えた後、どこへ行くのか」という、謎とも言える人生の目的についての疑問に答えてくださるという神への信頼から得られます。

人生には困難が伴います。試練に遭うとき、信仰を持ち続けることは難しいように思えるものです。そんなときに平安と希望を与え、理解を助けてくれるのは、主イエス・キリストとその贖いに対する信仰だけです。主がわたしたちに代わって苦しまれたことを信じるようになって初めて、最後まで堪え忍ぶ力が得られるのです。この信仰を得ると、心の中に大きな変化が起こります。そしてエノスのように強くなり、兄弟姉妹の幸福を願うようになります。救い主の贖いを信じる信仰によって彼らも強められ

るようにと願い、彼らのために祈るようになるのです。

わたしたちの生活に及ぼす贖いの効力について、幾人かの預言者の証から見ていきましょう。彼らの証を心に深くしみ込ませてください。そしてどのような種類のものであれ、あなたの霊の飢えを満たすようにしてください。

「その日、御父と御子のことを証する聖霊がアダムに降り、そして言った。『わたしは初めから、……父の独り子である。あなたは墮落したので、贖いを受けることができる。』（モーセ5:9)

アンモンはこのように証しています。「見よ、わたしは贖い主を見た。贖い主は将来おいでになり、一人の女からお生まれになり、御名を信じるすべての人を贖われる。』（アルマ19:13)

そして最後に、ジョセフ・スミスです。ジョセフは、14歳のときに揺るぎない信仰を働かせて「神に、願い求めるがよい」というヤコブの勧

カ ートランド神殿で  
救い主の  
訪れを受けた  
ジョセフ・スミスと  
オリバー・カウドリは、  
このように証しています。  
「わたしたちは、  
主……を見た。  
……その声、すなわち  
エホバの声は  
大水の奔流のとどろき  
のようであった。」



めに従いました(ヤコブの手紙1:5)。父なる神と御子イエス・キリストが御姿を現し、指示をお与えになりました。最後の神権時代において最初に召された預言者が見た最初の示現です。何と輝かしい出来事でしょう。16年後、ジョセフはカートランド神殿で救い主の再訪を受けてこう証しました。「わたしたちは、主……を見た。……その声、すなわちエホバの声は大水の奔流のとどろきのようで、このように言われた。『わたしは最初であり、最後である。わたしは生きている者であり、殺された者である。わたしは父に対するあなたがたの弁護者である。』」(教義と聖約110:2-4)

信仰に飢え渴いているすべての方にお勧めします。「預言者たちと使徒たちが書き記してきたイエスを求め」てください(エテル12:41)。救い主は皆さんのために命をささげられました。この預言者の証を心に深くしみ込ませてください。これが真実だという証が聖霊を通

して得られるように、祈り求めてください。人生の試練に喜んで立ち向かい、永遠の命を得る備えをします。これを行うとき、信仰は強められます。

イエス・キリストは確かにこの地上に来られました。実在されたのです。そして、再び来られます。これは、クリスマスに、また一年を通していつでも、心に留めるべきすばらしい真理です。■



# クリスマスを分かち合う

末日聖徒になって初めてのクリスマスがそれまでと違ったものになるのは分かっていました。  
しかし、その喜びを分かち合うことで  
これほど素晴らしいクリスマスになるとは思ってもみませんでした。

ダイアナ・メリナ・アルボルノス・ディアス

わたしが17歳のとき、母は人形工場から縫い物の仕事を請け負っていました。仕事は自宅で行っていたのですが、材料を受け取ったり、完成品を納めたりするために工場へ行くことがありました。工場ではある男の人に品物を納めていましたが、その人は何かほかの人と違う雰囲気を持っていました。

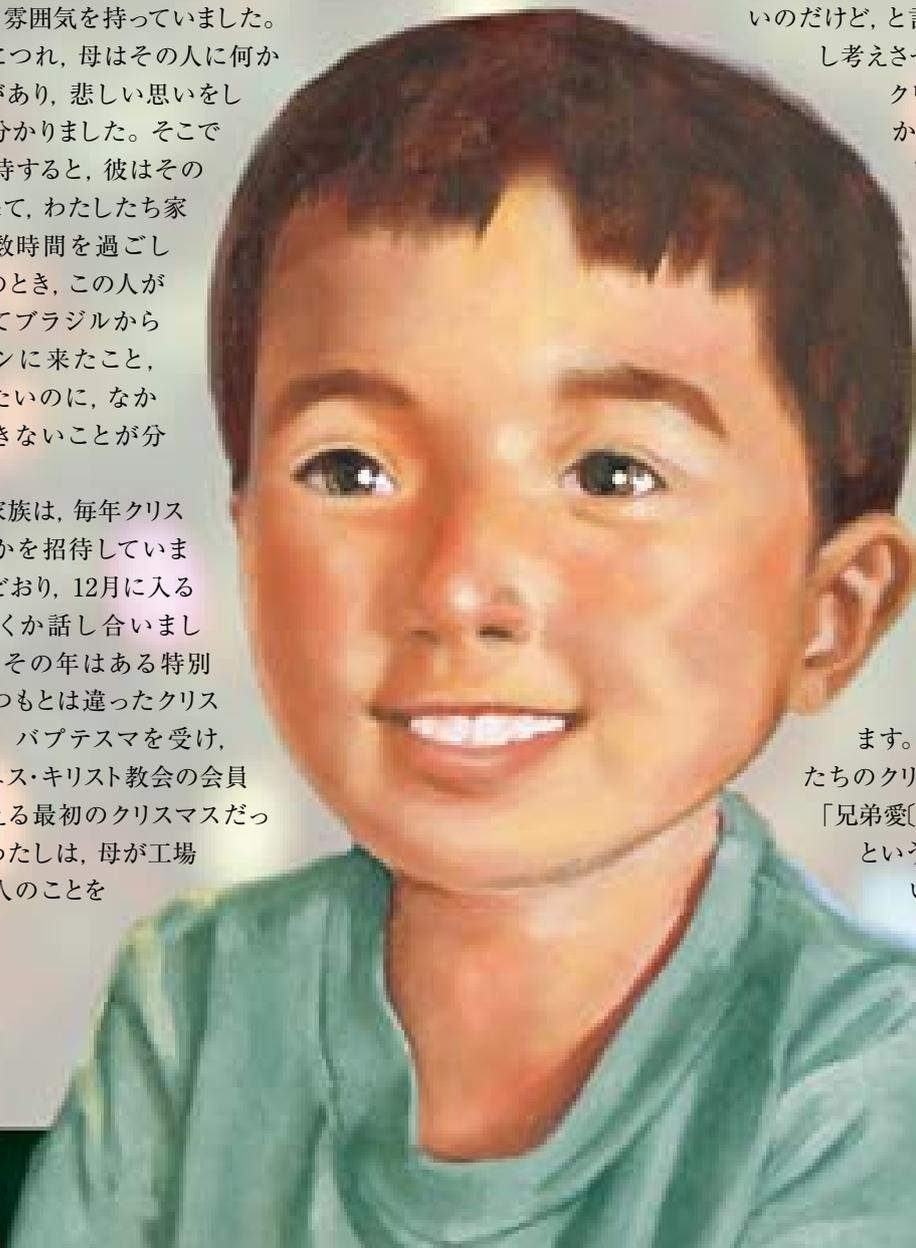
知り合うにつれ、母はその人に何かつらいことがあり、悲しい思いをしているのが分かりました。そこで我が家に招待すると、彼はその日にやって来て、わたしたち家族と一緒に数時間を過ごしました。そのとき、この人が仕事を求めてブラジルからアルゼンチンに来たこと、母国に帰りたいのに、なかなかそうできないことが分かりました。

わたしの家族は、毎年クリスマスにだれかを招待していました。例年どおり、12月に入るとだれを招くか話し合いました。しかし、その年はある特別な理由でいつもとは違ったクリスマスでした。バプテスマを受け、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になって迎える最初のクリスマスだったのです。わたしは、母が工場で会う男の人のことを

すぐに思い浮かべましたが、口には出しませんでした。すると、少したってから母が彼を招待したいと言いました。

次に縫い物を納品に行ったとき、母は彼にクリスマスに何か予定があるか尋ねました。まだ分からないと言う彼に、母はクリスマスイブを我が家で一緒に過ごせたらうれしいのだけど、と言って招待しました。彼は少し考えさせてほしいと言いました。

クリスマスイブの夜遅く、だれかが玄関にやって来ました。ドアを開けると、あの男の人が3歳になる息子を連れて立っていました。この男の子と会って一緒にクリスマスイブを祝えたのはとてもうれしいことでした。この男の子も、父親と同じく優しい心の持ち主でした。クリスマスイブにこの子の心地よい歌声に耳を傾けていると、わたしたち家族はまるで心の中で鈴が鳴っているような気持ちになりました。わたしは福音に感謝しています。その年以來、福音はわたしたちのクリスマスに対する思いを高め、「兄弟愛(と)慈愛……を思い起こす」という家族の決心を強めてくれます(教義と聖約4:6)。■





下, 左から右へ——モンゴルの教会教育システムでディレクターを務めるプレフスレン。

ウランバートル地方部扶助協会会長モンフサイハン。帰還宣教師バッド。

次ページ——夫婦宣教師デニス・ギボンズとキャシー・ギボンズのアパートでレッスンを受けるヤングシングルアダルトの会員たち。



# モンゴル

## 草原に芽吹いた信仰

モンゴルにおいて福音は比較的新しいものですが、会員たちはイエス・キリストへの信仰を通して自らを変えることにより、周囲の世界をも変えています。

ドン・L・サール

教会機関誌

**ウ**ランバートル郊外の山腹に描かれた巨大なチンギス・ハーンが、母国モンゴルの首都を見下ろしています。この巨大な肖像は、かつて偉大なハーンがアジアの大部分と、中東、東ヨーロッパの一部を支配していたことを思い起こさせるために描かれています。「ローマ人が400年をかけて支配したよりも多くの国と民を、モンゴル軍は

25年で征服した。……歴史上、最も多くを征服した人も、チンギス・ハーンに比べればその半分にも及ばなかった<sup>1)</sup>のです。チンギス・ハーンの子孫とその影響力は、今後何世紀にもわたって大きなものであり続けるでしょう。

2006年7月、この国はモンゴル帝国創立800周年を祝いました。今日、この国のことを「発展途上国」と言う人もいます。しかし、その言葉は良い意味で使われるべきです。モンゴルは活気と創造性に満ちており、国家も国民も急速に成長しているからです。

国の成長と同時に、イエス・キリストに対する信仰を成長させている人もいます。1920年代から1990年まで、モンゴルではどの宗教も公式に認められていませんでした。現在、モンゴルには2つの地方部と20の支部があり、6,000人を超える教会員がいます。宣教師たちは、多くのモンゴル人が福音を喜んで受け入れることに気づいています。

そのような人々についての話をいくつか紹介しましょう。

### プレフスレン

Sh・プレフスレンはソビエト連邦の大学で勉強していたとき、神と聖書について知りました。(モンゴル人は通常、名字ではなくファーストネームを用い、正式な場合にはその前に名字の頭文字を付けます。)英語を学びたかったプレフスレンは、同じ大学で学んでいた友人からロシア語と英語の対訳版の聖書を買いました。そして夜ひそかに読んでいました。公然と聖書を読むと退学処分になってしまうからです。

父親から名誉と正義を尊ぶ仏教の道徳規範を教わっていたプレフスレンは、いつもその原則を実践





上、左から右へ——  
**ウランバートル  
 地方部会長  
 オドゲレル。  
 モンゴル出身で  
 最初の宣教師の一人、  
 ソヨルマ。  
 同じく帰還宣教師の  
 アンフバル。**  
 下——子供たちに  
**レッスンを教える  
 初等協会の指導者。  
 次ページ、上——  
 モンゴルの  
 天幕の家に住む  
 アジャボルドと  
 その家族。  
 次ページ、下——  
 オドゲレル(後列で  
 帽子をかぶっている)と  
 その家族。  
 4世代にわたる  
 教会員たちとともに。**

しようと努めていました。聖書に霊的な関心を持つようになったのは、プレフスレンがモンゴルへ戻り、結婚し、大学の教授になった後のことです。仕事でインドを訪れたとき、あるキリスト教徒に出会いました。その人はプレフスレンに聖書を渡し、イエス・キリストの神性について思いを述べました。それを聞いたプレフスレンは、死んだ後の世界について父親から教えられていたことを思い出します。「わたしは神に対する基本的な信心を父から教わっていました。」プレフスレンは、自分がどのように次の世への備えをすることを神に望まれているのか考えるようになりました。

プレフスレンはモンゴルの教育者連盟の会長として合衆国に招かれ、そこで初めてモルモン書に出会いました。ユタ州で視察団のホストファミリーだった教会員がモルモン書をくれたのです。しかし少し読んだだけで、それっきりになってしまいました。

2000年9月、モンゴルで末日聖徒の宣教師に会ったプレフスレンは、家族とともに福音を学ぶようになりました。新たな視点でモルモン書を読むと、探し求めていた真理がこの本の中にあることが分かりました。同じ年の11月、妻とともにバプテスマと確認の儀式を受けると、そのわずか1、2週間後には支部会長に召されました。

プレフスレンの子供たちは最初、この新しい教会に関心を持ちませんでした。当時高校生だった息子は特に嫌がりましたが、宣教師の話聞いてほしいという父親の頼みは素直に聞き入れました。やがて二人の子供もバプテスマと確認の儀式を受け、その後息子はアイダホ

州で伝道しました。

プレフスレンは2001年から現在に至るまで、モンゴルの教会教育システムのコーディネーターとして、若い人々を教える責任に深くかかわっています。

今日、モンゴルにはインスティテュートの生徒が約600人、セミナーの生徒が約700人います。生徒たちは、家族の反対に遭うことが多いにもかかわらず、時間や高い交通費という犠牲をいとわずクラスに出席しています。生徒の数は2001年に比べて約3倍に増えました。

コーディネーターをしていて、最もうれしいことは何でしょうか。生徒たちが会員でない友達をクラスに連れて来るので、「大勢の子供たちがセミナーを通して教会に入るのを見るのが何よりもうれしいです」とプレフスレンは話します。

### ソヨルマ

「わたしは問題児でした。」U・ソヨルマは両親が亡くなった後の高校生活を振り返り、こう言います。ロシアの大学にいたとき、酒を飲み、浮かれ騒ぐようになりました。ところがモンゴルへ帰国した後、かつて一緒に騒いでいた友人から教会に誘われたので驚いてしまいました。友人はすっかり変わったように見えました。

キリスト教の教えについてある程度は知っていたソヨルマでしたが、最初のうちは友人の誘いを断っていました。ようやく承諾すると、不思議なことに期待感でいっぱいになりました。集会に出席するとすぐに平安に包まれ、居心地のよさを感じ、人生の進むべき道が分かったような気持ちになりました。そして教会に入ると、



1995年にはその友人と二人でモンゴル出身の最初の宣教師となりました。ソヨルマはユタ州で奉仕しました。

ソヨルマは現在、教会の資材管理部ディレクターを務めています。また、モンゴルにおける教会の広報ディレクターを兼任しているほか、地方部扶助協会の会長会顧問、支部の福音の教義クラス教師としても奉仕しています。

「教会員であることは特権です」とソヨルマは語ります。「わたしの生活は常に向上しています。教会にいるおかげです。」

モンゴルでは教会はあまり知られていません。末日聖徒については、好意的な情報よりもむしろ否定的なものが多く出回っています。真理を広めるには地道な努力が必要です。

教会のいちばんの代表者は会員です。顔に表れる「光と幸福感」が彼らを際立たせるのです、とソヨルマは話します。ほかの多くの人々が知らない福音から、会員たちは自信と喜びを得ています。

世界中に住むほかの末日聖徒のように、モンゴルの教会員も「同じ信仰を持ち、福音において一つの大きな家族に属しています」とソヨルマは語っています。

### オドゲレル

1995年、母親からキリスト教の教会に誘われたとき、O・オドゲレルは彼女がすでにこの教会の会員であることを知りませんでした。公立図書館で働いていた母親は、建物内にある集会室の使用受付を担当していました。ある日、集会室から聞こえる歌声に引かれた彼女は、そこで行われている集会に誘われました。その後、宣教師から福音を学び、バプテスマと確認の儀式を受けたのです。

オドゲレルは両親が学生として住んでいたロシアで生まれ、ソビエト社会主義による教育を受けました。それは彼女にとって宗教のようなものでしたが、ソビエト連邦が崩壊したとき、信じていたものも消えてしまいました。そこで、人生の唯一の目的は生きているうちに楽しむことだと考え、酒を飲ん



で騒ぐようになりました。しかし、こうした生活には何の進歩もないこと、そして自分をだめにしてしまうような行動は避けるべきだということがすぐに分かるようになりました。

多くのモンゴル人と同様、オドゲレルはモルモン書を読んだとき、これなら容易に受け入れられると思いました。「モンゴル人は、福音が良いものだということがすぐ分かるので、何の抵抗もなく受け入れられるのです」とオドゲレルは話します。モンゴル人は「福音に対して誠心誠意、心を開きます。」オドゲレルも同じでした。至高者の存在を感じたのです。福音を通して神を見だし、また自分の信じられる生き方も見つけました。オドゲレルは次のように話しています。「それはわたしにとって最も幸せな瞬間でした。」

福音は人々の生活を立て直してくれます。モンゴルの社会はこの福音から恩恵を受けることができるでしょう、とオドゲレルは語っています。飲酒は社会問題であり、不道徳もそうです。モンゴルには世俗的な行動規範しかなく、現在その影響はテレビを通してますます強くなっています。対抗する強力な宗教的伝統がモンゴルにはないのです。しかしオドゲレルは、人々がイエス・キリストの福音を通し、生活の指針となる義にかなった道を見いだしていると話しています。

オドゲレルは現在、モンゴルのウランバートル地方部で会長を務めています。地方部にある11の支部には約3,700人の会員がいます。その約7割は独身者です。

### アンフバヤル

2001年から2003年まで、E・アンフバヤルはユタ州ソルトレーク・シティー南伝道部で奉仕しました。20代半ばになる現在、ウランバートル地方部でヤングシングルアダルトの指導者を務めています。

伝道の召しを受けたとき、アンフバヤルは英語がまったく話せませんでした。召しを知らせる自分への手紙も、二人のアメリカ人宣教師に読んでもらったほどです。現在はウランバートルにある教会の事務所の一部屋を使った配送センターを管理しており、モンゴル語に翻訳された福音の資料を教会員が入手する手伝いをしています。英語の読める人には英語



の資料も提供します。宣教師の責任は人々が福音を学ぶ手伝いをするものでしたが、今の仕事も福音を学ぶ手助けをするという意味では同じです、とアンフバヤルは話しています。

アンフバヤルは、1998年に両親、弟と一緒に家族全員で改宗しました。家族が教会の集会に参加するようになってから、彼はその後の人生を変える二つの夢を見ました。2度とも、何かの破壊から逃れようとしているときに光り輝く御方に救われるという夢でした。後に両親は、その御方は間違いなく救い主だと言い、その夢の意味について祈るよう勧めました。答えを受けたアンフバヤルは、福音を聞く決心をしたのです。

アンフバヤルは、教会へ入る前「家族はすごく仲が良いというわけではありませんでした」が、今は「お互いに話し合い、母と父の愛を感じることができまます」と話しています。アンフバヤルは伝道地で、教会員は家族のようだと感じました。今は、友人が同じ喜びを感じられるよう、彼らにも福音を伝えようと努力しています。

アンフバヤルはガールフレンドにも福音を紹介し、彼女はバプテスマと確認の儀式を受けました。もし結婚すれば、モンゴルの若い夫婦の多くが頭を抱えている問題に彼らも直面するでしょう。それは住む場所です。住居そのものが少なく、多くの若い夫婦にとっては値段が高すぎるのです。結局は、小さなアパートで親と同居するか、モンゴルの遊牧民の伝統的な住居であるゲル(円形で内部が一つの空間になっている天幕のような住居)に住むことになる場合もよくあります。

## マジグスレン

モンゴルの宣教師は自分から福音を伝えることが許されていないので、興味のある人が連絡してきた場合や紹介を通して求道者を見つけます。たいていの場合、福音を見いだしたモンゴル人は、彼らが心から大切にしている人々をまず宣教師に紹介します。そのため、家族や親戚<sup>しんせき</sup>同士で同じ支部に集っているということがよくあります。

Z・マジグスレンはモンゴルのダルハンにある小さなアパートでたくさんの家族と暮らしています。一緒に住んでいるのは夫と二人の10代の娘、娘夫婦と若い孫娘、また、息子夫婦と彼らの赤ちゃんです。マジグスレンの義理の息子のA・ソロンゾンボルドはダルハン地方部の会長を務めています。息子のKh・セルゲレンはダルハン第2支部の支部会長会第一顧問です。マジグスレン自身も支部の扶助協会会長会第一顧問として奉仕しています。

宣教師は、1996年に初めてダルハンにやって来ました。マジグスレンは1997年にバプテスマと確認の儀式を受けまし

た。ダルハンの町で最も初期に改宗した会員の一人です。

「わたしの子供が皆、教会員だということをととても感謝しています」と彼女は話します。マジグスレンは、示現の中でリーハイが見た命の木の実(1ニーファイ8章参照)を思い浮かべながらこう言いました。「わたしもあの実を食べて、天の御父のみもとへ帰りたいたいと思いました。」子供たちにもその実を食べさせたいと思いました。子供二人がそれぞれの配偶者と結び固めを受けていることをうれしく思っています。娘のK・セレンゲはソロンゾンボルドと、息子のセルゲレンは妻のT・アルタンツヤと中国香港神殿で永遠の結婚をしました。

彼女はこう語っています。教会員は「教会へ来て、祈り、信仰を保つ必要があります。最も大切なのは信仰です。」なぜなら、信仰がなければ、教会に来ることも、祈ることもないからです。

息子のセルゲレンが教会に関心を持つようになったのは、教会員になることにより、以前とは変わった母と妹の姿を見たからです。また、夫婦宣教師が母親に教えていたリーハイの物語を聞き、自分の母親も子供たちが正しい行いをするように導こうとしていることが分かりました。

多くのモンゴルの教会員と同じように、セルゲレンはこう話しています。「わたしはモルモン書を読むのが好きです。読む度に新しいことが見つかるからです。」司令官モロナイの物語が大好きです。また、ヤコブ書第6章11節と12節の言葉にも感銘を受けています。「悔い改めなさい。そして、狭い門から入り……なさい」とすべての人に呼びかけている聖句です。

「ロシアで伝道する機会があったことに心から感謝しています」とセルゲレンは言います。多くの人にバプテスマを施すことはありませんでしたが、まいた種が将来花を咲かせることを信じています。1993年以来、モンゴルから530人を超える若い人々が伝道へ出ました。300人以上が合衆国で、またたくさんの方々がロシアで奉仕しました。

セルゲレンの義理の弟ソロンゾンボルドは、18歳のときに





教会に加わり、20代半ばの現在は、5つの支部を持つダルハン地方部の会長を務めています。まだ大学生のソロンゾンボルドは、「教会の召しに感謝しています。たくさんのことを学べるからです」と語っています。

モンゴルの人々は、教会員が報酬を得ずに教会で奉仕していることに感銘を受けている、とソロンゾンボルドは言います。

「わたしは教会員になる前はとても利己的でした。」福音についてできるだけ多くを学ぶという目標を立てているソロンゾンボルドはこのように言っています。「わたしたちが目指すのは学ぶこと、そして人と分かち合うことです。」

### モンフサイハン

A・モンフサイハンが福音を見いだす前、この悲観的な世の中には希望が持てないと考えていました。しかし、福音を通して信仰と希望を見いだすことにより、彼女の世界観は変わりました。

1990年までの数年間、彼女はロシア語を教えていました。しかし、モンゴルの政情と文化的価値観が変わると、英語を学び、教えられるようになる必要があると思いました。そこで1年間、末日聖徒の宣教師から英語を勉強しました。福音にも興味を持ちましたが、話を聞く前に彼らの信仰を注意深く探ってみることにしました。すると、この宗教は真理の原則に基づいた信仰であるというだけでなく、さらに人の生き方そのものであるということが分かりました。モンフサイハンは2000年6月にバプテスマと確認の儀式を受けました。1か月後には家族全員も教会に加わっています。現在、ウランバー

トル地方部の扶助協会会長を務める彼女の目には、自分や子供たち、孫たちにとって以前よりずっと明るい世界が映っています。

モンフサイハンは福音によって自分の生活が変わってから、教師としての仕事に福音の原則を応用したらきっとすばらしいことが起こるだろうと考えました。そして、意識してすべての生徒を愛するように努めました。中には愛することが難しい生徒もいました。そこで、生徒のために祈るようになりました。すると興味深いことに、自分が変わっていくのに気がつきました。生徒をもっと愛することができるようになったのです。生徒たちはモンフサイハンが祈っていることを知りませんでした。彼らの態度も同じようにならなくなりました。

彼女は「福音の中で信仰を働かせるにつれて、自分を変えることができるようになります」と話しています。

彼女の経験が示すように、福音はモンゴルを変えていくでしょう。教会員がイエス・キリストへの信仰を通して変わることで、周囲の世界をも変えていくのです。■

### 注

1. ジャック・ウェザーフォード, *Genghis Khan and the Making of the Modern World*, 2004年, xviii

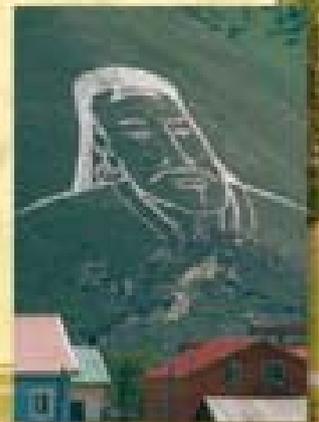
上、左から右へ——  
夫婦として

新しい生活を始めた  
帰還宣教師同士の  
教会員。

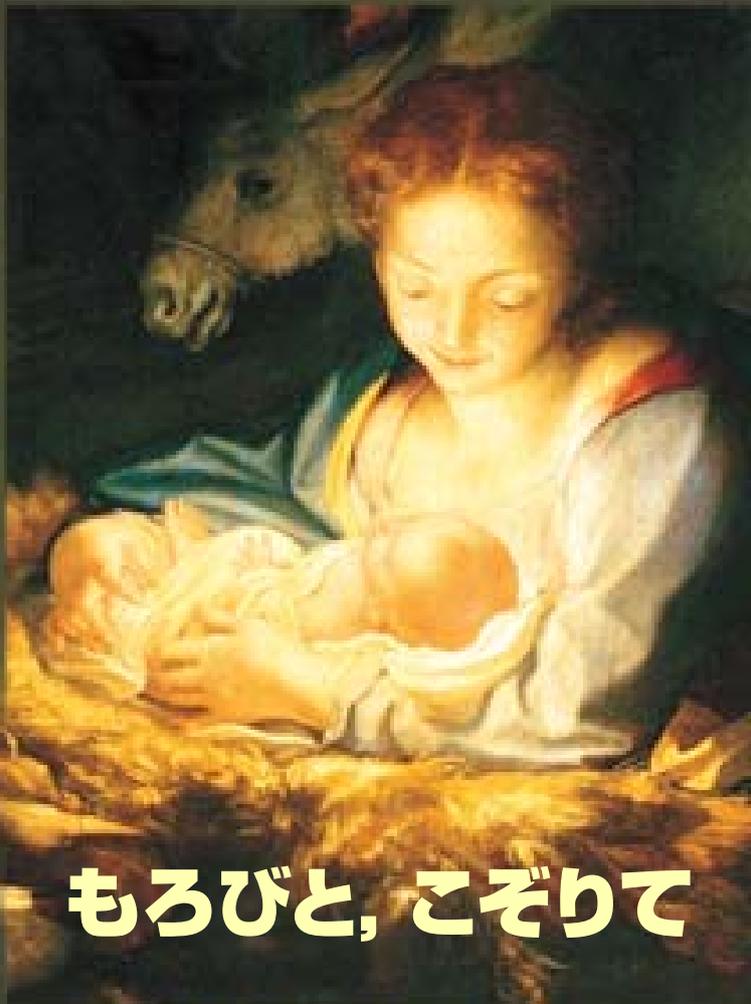
ダルハンの開拓者  
マジグスレン。  
ウランバートル  
地方部初等協会会長の  
ツフシヤルガルと  
娘アヌダリ。

下——  
山腹に描かれた  
チンギス・ハーン。  
前ページ——

毎年恒例の  
ナーダム祭で  
モンゴル軍の騎兵に  
ふんする人たち。



Դուրսդ, արդյունք \* MAAYONG PASKO \* メリークリスマス \* GLÆDELIG JUL  
 ZALIG KERSTFEEST \* MERRY CHRISTMAS \* MALIGAYANG PASKO  
 JOYEUX NOËL \* 聖誕快樂 \* FRÖHE WEIHNACHTEN \* GOD JUL  
 ХРИСТИЙН МЭНДЭЛСНИЙ БАЯРЫН МЭНД ХҮРГЭЕ \* BUON NATALE  
 GOD JUL \* 聖誕快樂 \* FELIZ NATAL \* СЧАСТЛИВОГО РОЖДЕСТВА  
 MANUIA LE KERISIMASI \* FELIZ NAVIDAD \* HYVÄÄ JOULUA  
 KILISIMASI FIEFIA \* Գրգռիմիտիտիտ \* ВЕСЕЛОГО РІЗДВА \* FELIZ NATAL  
 MAAYONG PASKO \* GLÆDELIG JUL \* メリークリスマス \* Դուրսդ, արդյունք  
 ZALIG KERSTFEEST \* MERRY CHRISTMAS \* MALIGAYANG PASKO \* GOD JUL  
 JOYEUX NOËL \* 聖誕快樂 \* FRÖHE WEIHNACHTEN \* GOD JUL  
 ХРИСТИЙН МЭНДЭЛСНИЙ БАЯРЫН МЭНД ХҮРГЭЕ \* BUON NATALE  
 GOD JUL \* 聖誕快樂 \* FELIZ NATAL \* СЧАСТЛИВОГО РОЖДЕСТВА  
 MANUIA LE KERISIMASI \* FELIZ NAVIDAD \* HYVÄÄ JOULUA  
 KILISIMASI FIEFIA \* Գրգռիմիտիտիտ \* ВЕСЕЛОГО РІЗДВА \* FELIZ NATAL  
 MAAYONG PASKO \* GLÆDELIG JUL \* メリークリスマス \* Դուրսդ, արդյունք  
 ZALIG KERSTFEEST \* MERRY CHRISTMAS \* MALIGAYANG PASKO \* GOD JUL  
 JOYEUX NOËL \* 聖誕快樂 \* FRÖHE WEIHNACHTEN \* GOD JUL  
 ХРИСТИЙН МЭНДЭЛСНИЙ БАЯРЫН МЭНД ХҮРГЭЕ \* BUON NATALE  
 GOD JUL \* 聖誕快樂 \* FELIZ NATAL \* СЧАСТЛИВОГО РОЖДЕСТВА  
 MANUIA LE KERISIMASI \* FELIZ NAVIDAD \* HYVÄÄ JOULUA  
 KILISIMASI FIEFIA \* Գրգռիմիտիտիտ \* ВЕСЕЛОГО РІЗДВА \* FELIZ NATAL  
 MAAYONG PASKO \* GLÆDELIG JUL \* メリークリスマス \* Դուրսդ, արդյունք  
 ZALIG KERSTFEEST \* MERRY CHRISTMAS \* MALIGAYANG PASKO \* GOD JUL  
 JOYEUX NOËL \* 聖誕快樂 \* FRÖHE WEIHNACHTEN \* GOD JUL  
 ХРИСТИЙН МЭНДЭЛСНИЙ БАЯРЫН МЭНД ХҮРГЭЕ \* BUON NATALE



# もろびと, こぞりて

# 慈愛を實踐することによって、 神の御手に使われる者となる



以下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証を伝え、あなたが教える人々にも同様に分かち合うように勧めてください。

## 慈愛とは何でしょうか。

**ハワード・W・ハンター大管長 (1907-1995年)**——「主は言われました。『わたしは、新しいましめをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。……それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう。』(ヨハネ 13:34, 35) わたしたちが人類という家族の兄弟姉妹に対して持つべきこの愛、またキリストがすべての人に対して持つておられるこの愛は、慈愛あるいは『キリストの純粋な愛』と呼ばれています(モロナイ7:47)。

この愛のゆえに、キリストは贖いのために進んで苦しみを受け、自らを犠牲とされたのです。これこそ人間が到達し得る頂の極みであり、人間の心の最も深淵な表現です。……

救い主は、御自身がわたしたちを愛されたように、わたしたちも互いに愛し合うように命じられました。すなわち、御自身がまもっていた『慈愛のきずなを』身にまとうようにと命じられたのです(教義と聖約88:125)。わたしたちは内なる思いを清めて心を変え、実際の行動や態度を、自ら信じ……ている

ことに恥じないものとするように求められているのです。……

キリストの愛に満たされている人は、行いを改善するよう人に強いようとはしません。むしろ、そのようにしたいという気持ちを人に与えます。さらに、神を知りたいという望みを起こすように靈感を与えるのです。わたしたちは人々に親しい交わりの手を伸べなければなりません。もっと親切で、優しく、寛容になり、怒るに遅くならなければなりません。』(『最も優れた道』『リアホナ』1992年7月号, 64-66)

## 神の御手に使われる者となるために、 慈愛はどのように役立つでしょうか。

**エテル12:28**——「信仰と希望と慈愛が彼らをわたしのものと、すなわち、あらゆる義の源に導く……。」

**十二使徒定員会会員  
ジョセフ・B・ワースリン長老**——「一度、……」

信仰の目を通して、自分たちが、人を贖うために御子を与えてくださった愛に満ちた御父の子供であるということを理解すると、心の中に、大きな変化を経験します。そして、『贖いをもたらす愛の

歌を歌』いたいと感じ[アルマ5:26]、胸の中が慈愛で満たされるようになります。わたしたちは、神の愛は『どんなものよりも好ましいもの……それは人にとって最も喜ばしいもの』[1ニーファイ11:22-23]ということを知っていて、その喜びを人々と分かち合いたいと思っています。わたしたちは人々のために働き、祝福を伝えたいと望んでいます。』(『神聖な特質を養う』『リアホナ』1999年1月号, 28-29)

**中央扶助協会会長会第二顧問  
アン・C・ビングリー**——「わたしたちは……家族単位、また家庭単位による純粋な愛の小さくて簡単な行為、すなわち慈愛を實踐することによって、世界を変えることができます。」

救い主の純粋な愛である慈愛は、『最も気高く、尊く、しかも強い愛』であり、わたしたちは慈愛を備えるために『熱意を込めて御父に祈り』ます。ダリン・H・オークス長老は、慈愛とは『人の行動ではなく、人の[到達した]状態』であると教えています。わたしたちが日々ささげる慈愛は『墨によらず生ける神の霊によって……人の心の板に書かれ』るものなのです。慈愛の行為は、少しずつわたしたちの心を変え、人格を形成し、ついには『わたしがここにいます。わたしをお遣わしてください』と勇氣と決意をもって主に言える女性にしてくれるのです。』(『慈愛——家族単位、家庭単位による行為』『リアホナ』2002年11月号, 108) ■



# あなたがたの間で 記録を記さなければならない

現在、教会歴史家および記録者の召しを受けている七十人のマーリン・K・ジェンセン長老が先日、この重要な職の過去、現在、未来について、教会機関誌記者のインタビューにこたえました。

**末日聖徒は、記録を残すこと、そして教会歴史を収集し保存することが大切であると教えられていますが、それはなぜでしょうか。**



**マーリン・K・ジェンセン長老**——

聖典、とりわけモルモン書は、「覚えておくこと」が福音の基本的かつ救いにかかわる原則であることをはっきりと示しています。記録をするのは、わたしたちが覚えていられるようにするためです。過去を覚えていると神の子供として必要な将来への展望を持ち、未来の行く末に対して信仰を持つことができます。そうすれば、

現在をより忠実に生きることができるようになるのです。

1830年4月6日に教会が組織された日に、主は預言者ジョセフ・スミスにこのように命じられました。「見よ、あなたがたの間で記録を記さなければならない。」(教義と聖約21:1) 教会歴史家および記録者という職は、この啓示に基づいて定められました。

その日、預言者ジョセフは、教会の歴史を記録することが主の目から見てどれほど重要であるかを学びました。そして間もなく、最初の教会歴史家および記録者としてオリバー・カウドリを召しました。オリバーは初めに集会の議事録、祝福師の祝福、会員情報、神権の権能の証明書を記録しました。また、いわゆる教会の叙史的な歴史記録も書き始めました。

記録を残すことは神の戒めによって始まり、今日まで続いています。

**教会歴史家および記録者という召しにはどのような責任がありますか。**

**ジェンセン長老**——教会歴史家および記録者の責任の大部分は記録を作成することです。それには教会歴史として残

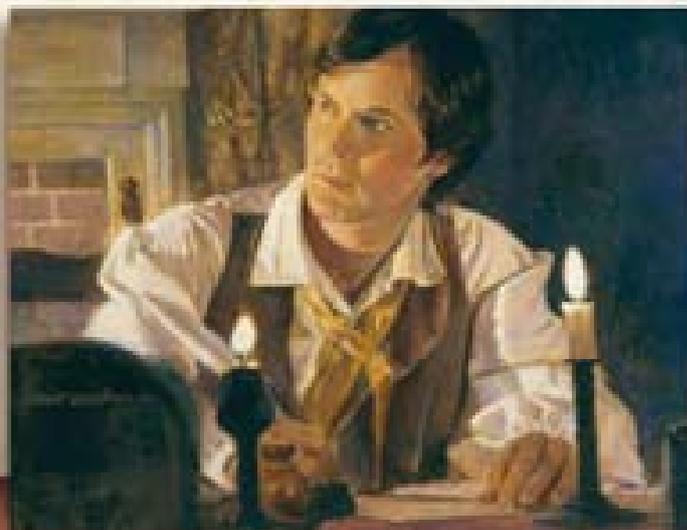
したい資料の収集と保存、儀式を記録すること、また議事録の収集などが含まれます。聖文にも、「教会のためになる、また……後の世代のためになる」(教義と聖約69:8)ように記録が使われることを確認する責任があると示唆されています。

歴史家と記録者の役割はお互いを補う部分が多く、あまり区別できないときもあります。教会の初期の時代に、記録者のみ、または歴史家のみとして召されることがあったのはその理由だと思えます。また、最近では両方を組み合わせて一つの召しとするようになったのも、これらの責任の内容が相互に補完的であるからでしょう。

**教会歴史を記録すること、また教会歴史を教えることのも目的は何でしょうか。**

**ジェンセン長老**——教会歴史の第一の目的は、教員がイエス・キリストを信じる信仰をはぐくみ、聖約を守るのを助けることです。この目的を達成するため、主に次の3つの点に配慮しています。

一つ目は、回復というこの教会の土台となる真理を教会歴史を通して証し、擁護するように努めることです。





左ページ——最初の  
教会記録者を務めた  
オリバー・カウドリ。  
下——教義と聖約の  
手書き原稿の実物。

二つ目は、神が御自身の子供たちの  
ためになされた偉大な事柄を教会員が  
覚えているように助けることです。

三つ目は聖文の中にあります。わたした  
ちは、神の王国に関して明らかにされた秩序  
を守ることを聖文の中で命じられています。  
それには啓示、文書、手順、措置、規範を保存  
することが含まれます。これらは、神権の鍵<sup>かぎ</sup>の行  
使、神権定員会の正しい機能、儀式の執行など、  
救いに欠かせない事柄の秩序を保ち、継続させて  
いくために必要なものです。

**教会歴史家および記録者の職があることにより、教  
会はほかにどのような益を得ているでしょうか。**

**ジェンセン長老**——教会歴史家および記録者は、歴史  
的な事柄に関して教会の公式な見解を提示することがで  
きます。歴史に関する疑問はいつもあります。議論が生じる  
こともあります。そうしたとき、この職は、だれもが信頼できる  
回答を提供することができるのです。

教会歴史家は、教会の歴史的な土地や建物を管理・運営する  
史跡委員会の委員長を務めています。また、教会記録管理委員会  
の委員長も兼任します。この委員会は、宗務、法人を問わず、全世界  
の教会における記録の作成、管理、最終的な取り扱いを監督します。



「原」の複製画。オリバー・カウドリ「ロバート・T・バレット」画。写真／クレウ・ダニエル、ジェンセン、ARTBEATS

## 教会歴史をもっと知りましょう

インターネットにより、教会歴史がこれまでになく身近になりました。以下は、英語の教会歴史ウェブサイト <http://www.lds.org/churchhistory> で閲覧できる情報および資料の一例です。

- ジョセフ・スミス・ウェブサイト——預言者の生涯と使命を概説しています。歴史的な写真や文書を見ることもできます。

- Mormon Pioneer Overland Travel (1847–1868) (陸路によるモルモン開拓者の旅, 1847–1868年)——ユタ州へと西進した個人や隊を検索できるデータベースです。

- 史跡——教会の主要な史跡の場所、写真に加え、簡単な説明が掲載されています。

- 教会歴史美術博物館——美術や工芸作品を通して、教会歴史とその歴史に登場する教会員について知ることができます。

最も重要で神聖な記録の中には、神殿儀式の執行を証明する記録があります。それらの記録は「そのまま受け入れるに値する」書の一部として保存されています(教義と聖約 128:24)。わたしは、神殿の儀式執行に関する記録はまさに主がそのまま受け入れてくださる書であると感じています。神殿儀式の記録を含めて、会員の方々のすべての記録が大切に保管されていますので、その点は安心してください。

**歴史家の責任を果たすうえで、教会はテクノロジーをどのように使っていますか。**

**ジェンセン長老**——わたしは、教会歴史に欠かせない資料を収集し保存している家族・教会歴史部と連携して働いています。現在わたしたちは、より効率よく教会歴史資料を集めて保存し、世界中の会員が閲覧できるような方法を開発しています。わたしたちが行っている作業においてインターネットがさらに重要な役割を果たすことは間違いありません。

わたしたちが長年収集してきた書物、文書、美術・工芸品、史跡、絵画などは、いわば教会歴史における最も価値ある宝です。わたしたちにはこうしたものを認められたふさわしい方法ですべての会員と分かち合う責務があると感じています。初版のモルモン書の手稿をインターネットで閲覧したり、モロナイが少年ジョセフ・スミスに現れた、丸太でできたスミス家の2階の部屋をバーチャルツアーで見学したりすることができれば、会員の方々にとって、信仰をはぐくみながら教会の過去に触れる良い機会となるでしょう。

また、テクノロジーは、地元の指導者や書記、またステーキ、ワード、伝道部の年次記録を編集する担当者にとって、訓練やサポートをさらに受けやすい環境を作ってくれます。テクノロジーを活用することによって、教会本部と各地との間で歴史に関する情報がよりスムーズにやり取りされるようになるでしょう。

**どのようにすれば、先祖代々の教会員から新会員に至るまで、すべての会員が教会歴史を共通の受け継ぎとすることができますか。**

**ジェンセン長老**——民の偉大さはその歴史の偉大さに等しいという言葉があります。教会歴史は、ジョセフ・スミスについての記録、つまり彼が真実の教会を探し求める感動的な物語から始まっています。ジョセフの話信じる人は信仰篤い人々の大きな群れに加わります。回復された福音を受け入れて生き方を変えるのです。この経験が、末日聖徒として共有する受け継ぎの非常に大きな部分となります。また、この教会が存在し、成長を続け、活発に活動するに当たり、教会の



始まりに関する歴史が大切な役割を果たしているということも、この経験を通して知ることができます。

教会歴史の中で、ぜひ多くの人に知ってもらいたい話、また教会や家庭で教える価値のある偉大な物語はほかにもあります。カートランドで学んだ教訓、ミズーリでの試練、ノーブーにおける聖徒たちの功績と最終的な追放、開拓者の西部への移住は、国や言語を問わず世界中の末日聖徒に靈感を与える物語です。また、教会の成り立ちと発展についても同じように感動的なエピソードがあります。そのほか、回復された福音に心動かされた、世界各地に住むごく普通の会員一人一人にもすばらしい物語があるのです。それらもまた記録し保

存する必要があります。

教会と家族歴史の関係も熟慮に値するものです。通常、片方について研究すると、もう片方につながっていきます。教会における最も偉大な物語のほとんどは、個人的な記録や家族の歴史の中にあります。それらは個人や家族の受け継ぎの一部となるものです。

最後に、教会歴史という受け継ぎを得るには、単に歴史書を読むだけでなく、それに加えて史跡を訪れたり、歴史的な美術・工芸品を見に博物館を訪れたり、親族の集まりに参加したり、個人の日記を書いたりすることなども大切です。すべての人が何らかの形で過去とかかわりを持つことが鍵<sup>かぎ</sup>となります。



ソルトレーク・シティから南に下った山の中にあるグラナイト山記録保管庫には、教会記録と家族歴史の大部分を収めたマイクロフィルムが保管されている。挿入——設計者による新しい教会歴史図書館の完成予想図。完成予定は2009年夏。

グラナイト山記録保管庫の写真／エルドン・K・リンヨネン

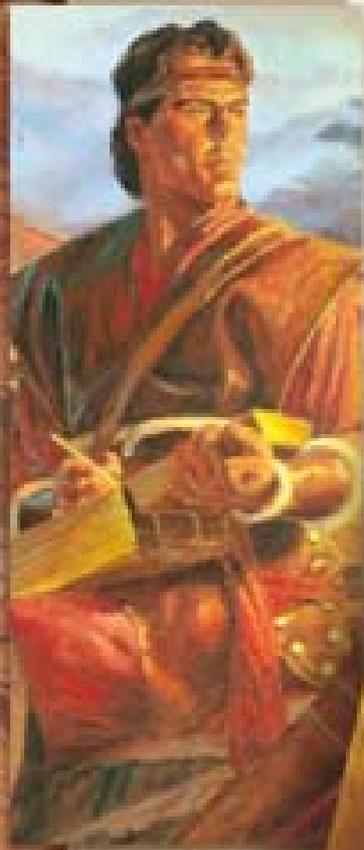
こんにち  
今日と同じように、  
ニーファイを  
はじめとする  
昔の預言者も  
自分たちの歴史を  
記録していた。  
下——モルモン書の  
版の複製。

**教会歴史家および記録者として奉仕して  
いて、個人的に最も意義深く感じていることは何  
ですか。**

**ジェンセン長老**——聖典は神聖な歴史書であるということを悟りました。わたしたちに記録を残した預言者たちは、自分たちの歴史物語の中に説教や教えを織り込んでくれました。例えば、モルモン書はリーハイとその家族の物語で始まります。聖典ですが、歴史物語でもあるのです。モルモン書はわたしたちの持つ書物の中で最も優れた歴史書です。わたしは、聖文と歴史が一つになって作用するときの力強さを理解し、大切に思うようになりました。

また、神の御前には、過去、現在、未来、す

べてが存在するという証を得ました。これは聖文にある真理の定義と見事に合致します。真理とは、「現在あるとおりの、過去にあったとおりの、また未来にあるとおりの、物事についての知識」です(教義と聖約93:24)。わたしたちは現在に生きています。未来は見えませんが、過去を見ることはできます。ただし、保存されていればです。過去から得られる物の見方、そして行動や思考の土台は、ほかの方法では決して手に入れられないものです。祖父の時代の歴史、預言者ジョセフ・スミスの歴史、教会の初期に末日聖徒の開拓者が受けた試練の歴史、あるいは第二次世界大戦で従軍した末日聖徒の兵士の歴史。どのような歴史であれ、過



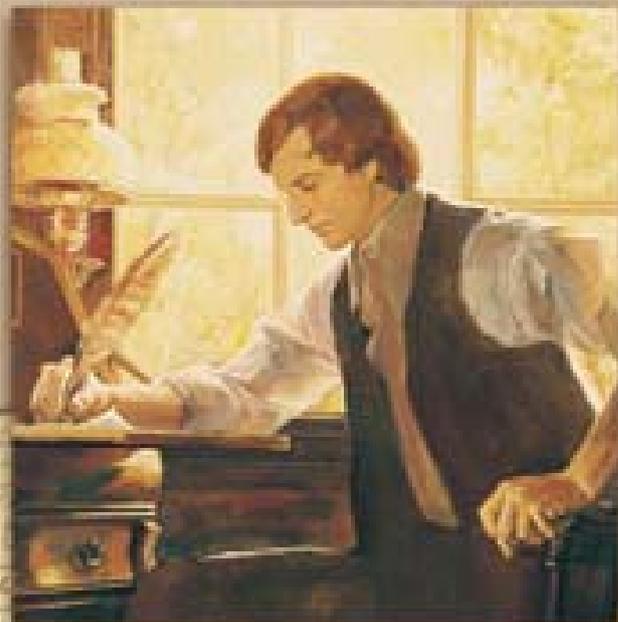
「版に刻む」ニーファイの「部、ポール・マン画。金版の写真/シエド・クラウ  
執筆のジョセフ・スミス」テール・キルボーン画



去から学ぶ教訓は現在の問題に取り組む助けとなり、未来に対する希望を与えてくれます。

わたしは、これまでになく預言者ジョセフ・スミスに感謝するようになりました。この神権時代の基礎を据えた預言者として、ジョセフが偉大な事柄を成し遂げてくれたからです。

わたしが心に蓄えている大切な事柄の中で最も重要なことは、正直な心をもって神を知りたいと望むならば、神を知ることができ、自分には神に対して報告をする責任があることを実感できるということです。これは預言者ジョセフ・スミスの模範のおかげです。ジョセフは模範を示し、この原則を教え、わたしたちもキリストを知ることができるといふ約束を示してくれたのです。わたしにとって、この知識以上に価値のあるものはありません。■



## 注目のプロジェクト

### 『ジョセフ・スミス文書』

**ジェンセン長老**——現在取り組んでいるプロジェクトの中で最も意義深いものは、『ジョセフ・スミス文書』(Joseph Smith Papers)プロジェクトだと思います。幾つもの部署と共同で行っている記念すべき事業です。預言者ジョセフ・スミスが行った説教、受け取った書簡、関係した法的な事柄を示す書類、受けた啓示だけでなく、ジョセフ自身が記したり、ほかの人に書き取ってもらったり、受け取ったりした文書を、何年もかけて収集しています。数巻にまとめて出版する計画です。

# ジョセフ・スミスの日記

預言者ジョセフ・スミスの7冊の日記は、  
ジョセフを理解し、彼の生涯で  
教会が発展してきた歴史をひも解くうえで  
役に立つ、非常に重要な記録となっています。

マーク・アッシュハースト・マギー、アレックス・スミス

家族・教会歴史部では現在、出版予定の「ジョセフ・スミス文書」(Joseph Smith Papers)に含まれる日記シリーズの編集に取り組んでいます。今後数年間をかけ、家族・教会歴史部はジョセフ・スミスのすべての書簡、日記、史書、啓示、その他の文書を出版する予定です。

**預**言者ジョセフ・スミスが最初の日記帳を購入したのは、教会の記録を残す必要性を告げる啓示(教義と聖約85:1-5参照)を受けた1832年11月27日のことです。その日のうちに日記帳を手に入れたのは、受けた啓示にこたえての行動と思われる。それは104ページある小さな手帳で、ジョセフはそれを「記録の書」と呼びました。

記録をつけることに対する大きな熱意を込め、ジョセフは「[[自分が]注目したすべての事柄を詳しく書き記す」という言葉で日記を始めています。しかし、話し言葉の方が得意であったジョセフは、思うように文章を書けず焦燥に駆られていました。<sup>1</sup> 結果として、きちんと日記を続けている時期もあれば、何も書かずに何か月も、数年さえも間の空くこともありました。それでも、自分自身で何度も挑戦したり、代筆してもらったりした結果、忠実で信頼できる筆記者ウィラード・リチャーズ長老の助けを借りることで、ようやく定期的に日記をつけることができるようになったのです。

ジョセフが自分で書いたり、代筆してもらったりした日記の中には、預言者が受けた最も初期の啓示が幾つか含まれています。また、ジョセフが述べた説教の幾つかに関しては、その詳細を記している唯一の記録となっています。これらの日

記は、ジョセフ・スミスを、そして彼が生きていた間に教会がどのように発展したかを理解するための最も重要な記録の一部なのです。

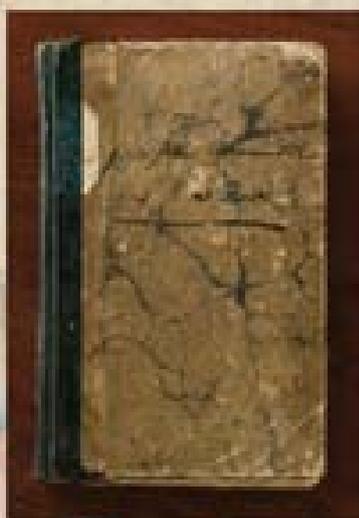
以下は、預言者が残した7冊の日記についての概略と、その記録を残す手助けをした数人の筆記者についての紹介です。

## オハイオにおける1冊目の日記——1832—1834年

ジョセフはこの1冊目の日記を最初の9日間にわたって毎日書きましたが、その後は何も記さずにほぼ10か月が過ぎていきます。再開したのは、アッパーカナダ(訳注——現在のオンタリオ州南部)への伝道に出ることになった1833年10月のことです。この伝道中に記録された事柄は、ジョセフの誠実さや、ジョセフ個人の霊的および精神面を豊かに示しています。例えば、10月12日にジョセフはこのように記しました。「とてもよい気持ちを感じている。主がわたしたちとともにいてくださっているが、家族のことをとても案じている。」その日のうちに、シドニー・リグドンとジョセフは自分たちの家族が無事であることを告げる啓示を受けました(教義と聖約100:1参照)。オハイオ州カートランドに戻った1833年11月4日、ジョセフは教会の第二の長老であるオリバー・カウドリに代筆してもらい、次のような日記を残しています。「主の約束どおり家族は無事であった。この祝福に対して主の聖なる御名に感謝する。」

その後、程なくしてジョセフはほかの筆記者の力を借ります。オリバー・カウドリに加え、預言者は大管長会の顧問であったシドニー・リグドン長老とフレデリック・G・ウィリアムズ長老に筆記者の仕事に依頼しました。また、1834年3月に次の伝道に赴いた際には、同行していたパーリー・P・プラット長老に日記を書くのを助けてくれるように頼んでいます。

すべての日記が日付順に書かれたわけではありません。ジョセフは時折、過去にさかのぼって以前に起きた出来事を記録しました。また、手帳の至る所に見られますが、財政記録



上—オハイオにおける  
 ジョセフ・スミスの  
 1冊目の日記の  
 最初のページ。  
 挿入—  
 この日記帳の表紙。  
 預言者の署名があります。  
 地図—預言者の  
 1冊目と2冊目の日記は  
 オハイオ州カートランド  
 で記されました。  
 3冊目と4冊目は  
 ミズーリ州  
 ファーウェストで、  
 5冊目、6冊目、7冊目は  
 イリノイ州ノーブーで  
 書かれています。

やその他のメモを取るためにも同じ日  
 記帳を使っていました。  
 この日記が最も頻繁に記された時  
 期は1834年2月下旬から4月にかけて  
 でした。これは預言者がミズーリ州  
 ジャクソン郡から追い出された末日聖徒  
 たちを支援しようと遠征隊を募り、募金を集  
 めていたことです。

## オハイオにおける2冊目の日記—— 1835—1836年

預言者の2冊目の日記は220ページから成る中型の帳面で、「スケッチブック」と呼ばれていました。1835年9月下旬から1836年4月初旬までの間にジョセフがカートランドやその周辺で行った事柄が記録されています。記録を始めたのはジョセフとオリバーでしたが、その役割はすぐにフレデリック・G・ウィリアムズに引き継がれ、さらにその後間もなく、預言者はウォーレン・パリッシュに専任の筆記者として奉仕するように依頼しました。日記のほとんどを書き上げたのはウォーレンでしたが、その多くはジョセフが彼に口述したものです。代筆してもらった文章は、概してジョセフ自身が書いたものよりもはるかに長くなっています。また、ジョセフらしさは弱まるものの、代筆された文章にも彼の個性をかいま見ることができます。ウォーレン・パリッシュやその他の筆記者の手により、毎日欠かさず日記がつけられました。

2冊目の日記には、自宅近くの森で父なる神とその御子イエス・キリストがジョセフに御姿を現された、最初の示現についての記録があります。また、1823年に天使モロナイがジョセフ・スミスに現れたときのことや、預言者がアブラハム書を最初に翻訳しようとしたときのことも記録されています。特に神学的な意義を持つのは、1836年1月21日に与えられた天の日の栄えの王国に関する示現と「この福音を知らずに死んだ者で、もしとどまることを許されていたらそれを受け入れたであろう者は皆、神の日の栄えの王国を受け継ぐ者となる」という啓示についての記録です(教義と聖約137:7)。これは身代わりの儀式によって死者を贖うという教義をあらかじめ示すものとなりました。

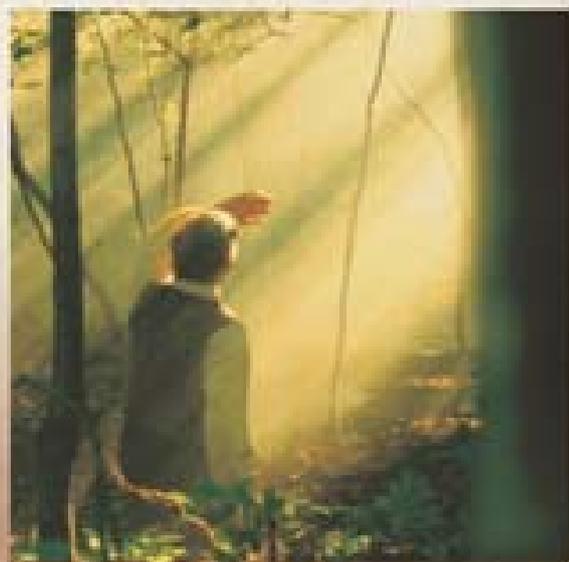
しかし、この日記で特に多くのページを割いて記されているのは、カートランド神殿の奉獻式の3日後に開かれた聖会への準備についてです。この聖会で、教会役員は福音を全世界

に宣べ伝えるために「高い所から力を授けられる」ことになっていました(教義と聖約105:11)。そのため、神権役員は備えをする必要がありました。日記には、幾つかの評議会や個々に開かれた集会を通して、一致をはぐくみ、兄弟間の個人的な見解の相違に対する解決が図られたとあります。

預言者は多大な時間を費やして、神権定員会や評議会を再組織しました。それは、聖会に向けて組織を整えるためでした。ジョセフは兄弟たちが長老の塾とそこで行われたヘブライ語講座で訓練を受けることを強く勧めました。日記には、この時期ジョセフがヘブライ語を意欲的かつ熱心に学んでいたことが記されています。また、これらの事柄に対する預言者の努力の経過が記録されており、神殿の奉獻、聖会、そして1836年4月3日の日曜日の集会についての記述で締めくくられています。復活祭を祝うこの日の朝、復活したキリストが預言者ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリ長老に御姿を現されました。それからモーセ、エライアス、エリヤが現れて、預言者ジョセフとオリバー・カウドリに神権の鍵かぎを授けました。現在、この記録は教義と聖約第110章となっています。

ジョセフ・スミスがミズーリで最初に書いた日記は、69ページから成る大きな帳面に記録さ

預言者が  
オハイオで記した  
2冊目の日記(上)には  
ジョセフ・スミスの  
最初の示現(右下)  
についての歴史的記録  
も含まれています。  
その他、  
1836年4月3日に  
カートランド神殿の中で  
モーセ、エライアス、  
エリヤによって  
神権の鍵が  
授けられたことも  
記録されました  
(右ページ)。



左—映画「回復」の一場面。右—写真/マシュー・ライアー、映画「回復」の預言者—ジョセフ・スミスのセットにて撮影



れています。これ以降の日記帳について、ジョセフは筆記者に自分の行動を観察し、自分の言葉で記録するよう依頼しています。ジョセフ・スミス自身が日記にかかわることは少なくなったものの、筆記者は、預言者の生涯をほかの方法では決して知ることのできない様々な視点から描き出しています。

日記の始めには、ミズーリ州コールドウェル郡ファーウェストに築かれた末日聖徒の町にジョセフが到着したことが、回想として短く記されています。この部分はジョセフ・スミスが口述したものとされます。ジョセフはカートランド安全協会の財政破綻に続いて起きた、背教によって生じた危険な状況やカートランドにおける法律上の苦難から逃れてきたところでした。

その後の日記は、書簡、啓示、その他の文書を写したものであり、ほぼ、あるいはまったく相互の関連性のないものです。様々な「文書」あるいは文章を保存する場所になっていたことを示すために、この日記は「記録帳」と題されています。<sup>2</sup> 1838年4月に記録されたほとんどの書簡や文書には、教会の指導者であったオリバー・カウドリとデビッド・ホイットマーが破門に至るまでの経過を示す出来事が記されています。

一つの啓示を除いて、この日記帳は教会の総書記および記録者を務めたジョージ・ロビンソンによって記されました。これまでに起こった事柄の整理、記録を行った後、ロビンソン兄弟は当時の最新の出来事を記録し始めました。そのころまでにロビンソン兄弟は大管長会の筆記者として指名されており、日記の内容には、預言者だけでなく大管長会の顧問であったシドニー・リグドンとハイラム・スミスについても焦点が当てられていました。

1838年4月から6月にかけてロビンソン兄弟は定期的に日記をつけ、隣接するデイビーズ郡に末日聖徒の町、アダム・オンガイ・アーマンを計画するために大管長会が尽力した様子なども記しました。ロビンソン兄弟は自分の一に関する啓示を含め

(教義と聖約119章参照)、預言者の啓示を数多く記録しました。

7月下旬から9月初旬までの記録は継続的で詳細なものとなっており、ミズーリ州北西部において聖徒たちへの暴力を伴った迫害が始まったと書かれています。1838年9月2日、ジョージ・ロビンソンはその地域に漂っていた空気についてこのように表現しました。「暴民政治を思わせる雰囲気は非常に強い。邪悪な意図の予兆のようだ。ミズーリ北部全体が喧騒と混乱に陥っている。」この日記帳の終わりには、ミズーリ州ファーウェストやコールドウェル郡のその他の場所にいた末日聖徒たちが、デイビーズ郡の聖徒たちを自警団から守るために北へ向かったと記録されています。

### ミズーリにおける2冊目の日記——1838年9月—10月

筆記者のジェームズ・マルホランドは、預言者の家に住んだことのある多くの下宿人の一人です。ジェームズは手製の小冊子に、ミズーリにおける預言者の2冊目の日記を記録しました。全部で3ページのこの日記帳は、9月初旬から10月初旬にかけてのわずか1か月の間に書かれました。「備忘録等」と題されたこの日記帳は、ジョセフ・スミスの日々の行動を記した簡潔なメモで、たいていの場合、1度の書き込みにはジョセフが30分ほどの間に何をしていたかが記されています。ミズーリで反対勢力が増加している時期に書かれたこの日記帳は、日常の所在を証明する証拠として裁判で使用するために預言者が指示して書かせたのかもしれませんが。

大管長会の筆記者であったジョージ・ロビンソン同様、ジェームズ・マルホランドも、預言者の考えていることや予定については知らされていませんでした。1838年10月5日付けの最後の書き込みにはこうあります。「午後の間、ずっとジョセフを見かけなかった。きっと外出したのだろう。」実のところ、ジョセフ・スミスは自警団によって町を包囲された聖徒たちを助けるためにミズーリ州デウィットへ出かけていたのです。

### イリノイにおける最初の日記——1839年

冬の間ずっとリパティエーの監獄で厳しい拘留生活を過ごした預言者ジョセフ・スミスと、一緒に捕らえられていた末日聖徒たちに、裁判場所を変更する許可が下りました。恐らく、裁判について公に知られることが州にとっての不利益となると考えたのでしょう。新しい裁判地へ行く途中で、看守たちは捕らえられていたジョセフたちを解放しました。ジョセフたちは1839年4月22日にミシシッピ川を渡ってイリノイ州へ行きました。そこで、ミズーリ州を逃れていた聖徒たちと合流し

下——預言者が  
イリノイ州で  
最初に記録した日記は  
15ページから成る  
手作りの  
「覚え書き帳」でした。  
日記とともに  
写っている  
手製の羽ペンも  
複製です。

ます。彼らはイリノイ州クインシーの市民から好意的な歓迎を受けていました。同日、預言者は再び日記を代筆してもらうためにジェームズ・マルホランドを雇いました。1839年4月から10月にかけて、マルホランド兄弟は「覚え書き帳」と題された全15ページの手作りの小冊子に預言者の活動を記録しました。

この日記帳には、再び聖徒たちを集めて神の王国を築こうとした預言者の苦勞が記されています。ジョセフは川の上流域に当たるイリノイ州コマースで土地を購入し、そこへ移り住むように聖徒たちに指示を与えました。その地域にはマラリヤの病原菌を運ぶ蚊が大量発生していましたが、聖徒たちは沼だらけの低地を排水し、コマースを美しい町に変身させました。後に、この町はノーブーと名付けられました。

1839年10月下旬、ジョセフ・スミスは貧困に苦しむミズーリ州の末日聖徒たちが連邦政府から支援助と救済を得られるよう、イリノイをたつてワシントンD.C.へ向かいました。ジェームズ・マルホランドの記録はジョセフが発する2週間前のもので最後となっています。それはジェームズが、他の多くの人々と同じように、マラリヤを発病したからかもしれません。ジェームズは預言者の不在中に亡くなりました。

### イリノイにおける2冊目の日記—— 1841—1842年

1841年12月、イングランドにおける伝道から帰還して数か月後、ウィラード・リチャーズ長老が記録を始めます。これが、預言者の生涯で最も長期にわたる、そして最も継続して記録された日記となりました。この日記とこれに続く次の日記は、1841年12月半ばから預言者がこの世を去る1844年6月まで事実上1日も欠かさず記録されました。リチャーズ長老は「主の律法の書」と名付けられた大きな帳面にこの日記を書き始めました。この

記録は「歴史を記録し、シオンで起こるすべてのことについて、また財産を奉獻〔する〕……すべての人について、一般教会記録を書き残す」という命令を果たすために作成されたようです（教義と聖約85:1）。日記帳にはまず幾つかの啓示の内容が収められ、続いて89ページに及ぶ日記文が教会への多数の献金記録の中に散在する形で書かれています。

この日記には扶助協会の創立やノーブー神殿の建設など、預言者の生涯における多くの重要な出来事が記録されています。日記文には教会の大管長、市長、店主、首席裁判官、新聞編集者、ノーブー部隊の司令官としての、またその他の役職を果たすジョセフの活動が記されています。また、啓示、訴訟、そのほかジョセフの妻エマやほかの人々との書簡によるやり取りの記録なども書かれています。

1842年6月、ウィラード・リチャーズがノーブーに家族を連れて来るためにマサチューセッツ州へ出立した際、ウィラードはこの日記をウィリアム・クレイトンに譲り渡しました。クレイトン兄弟は時にエライザ・R・スノーともう一人の筆記者の助けを得ながら日記の続きと献金記録を記しました。最後に記録されたのは1842年12月20日の出来事でした。

### イリノイにおける3冊目の日記——1842— 1844年

前の日記帳はまだその半分が白紙のままでしたが、1842年12月21日、「預言者ジョセフ・スミスの日記」と題された新しい日記が作られ、ウィラード・リチャーズが再び筆記者となりました。これが後に、計4巻、1,045ページに及ぶ日記となるのです。預言者とその兄弟ハイラムが殺害されるわずか5日前の1844年6月22日まで、ほとんど毎日記録されました。

リチャーズ長老独特の文体で書かれたこの日記は、恐らくジョセフ自身なら描かなかったであろう手法で預言者の人柄や性格をとらえています。日記の内容は幅広く、愉快なエピソードから、ジョセフ・スミスがノーブーの裁判所で



上—イリノイで記された3冊目の日記は  
 ウィラード・リチャーズが筆者として記録した  
 4巻から成っています。  
 ここに写っている机と文書用の箱は  
 ノーブーのスマス家にあったものと思われます。  
 挿入—1843年4月6日の日記には、  
 ノーブーで行われた教会の大会初日の出来事が記されています。

Thursday, April 6, 1843  
 The first day of the jubilee  
 of the church of Jesus Christ of  
 Latter-day Saints, a special con-  
 ference assembled on the platform of  
 the temple in favor of the movement  
 at 11 o'clock with the two doors.  
 Only 7 were my own & friends.

管理した訴訟の詳細にまで及びます。これらの様々な情報は、預言者ジョセフ・スマスをよりよく理解する助けになります。一部の書き込みを読むと、ジョセフがどのような内容を日記として代筆してもらうことを望んでいたかを知ることができます。例えば、1843年3月4日、預言者はリチャーズ長老にこのように述べました。「歴史家としてあなたに欠けていることが一つあります。それは周囲の物や天気などを観察し、具体的に記すことです。」あまり頻繁ではないものの、ジョセフがこの日記を読み返したことで、自分の生涯や初期の教会における出来事に歴史的な意味合いを込めることを彼が大切に思っていたことを表しています。

自分の生活と教会に関する出来事を記録しようとする預言者の努力には波があったものの、ジョセフはほかの人の協力を得て、最終的には自分の言動について定期的に記録することができるようになりました。ジョセフの日記は初期の教会

歴史の基礎を伝えているだけでなく、生涯の記録を残すことが子孫の人生に大きな影響を与えるということの模範をわたしたちに示しています。■

日記(英文)の引用文におけるつづりと句読点はすべて現代の用法に修正しています。これらの日記帳はユタ州ソルトレーク・シティーの教会歴史図書館に所蔵されています。

#### 注

1. 例として、インディアナ州グリーンビルにいたジョセフ・スマスからオハイオ州カートランドのエマ・スマスにあてた書簡、1832年6月6日付、イリノイ州シカゴ、シカゴ歴史協会、を参照。オハイオ州カートランドにいたジョセフ・スマスからミズーリ州インディペンデンスのウィリアム・W・フェルプスにあてた書簡、1832年11月27日付、ジョセフ・スマスの書簡記録第1巻、1-4ページ、ユタ州ソルトレーク・シティー、教会歴史図書館を参照
2. ノア・ウェブスター編、An American Dictionary of the English Language (1845年) "scriptory" の項、731参照



# 地 上 の

ジェード・スワーツバーグ

今もこの地上に  
預言者が存在する  
という知らせは、  
父に大きな喜びを  
もたらしました。

**わ**たしは昔から、約束されたメシヤであるイエス・キリストが2,000年前に地上に来られたことと、現在もこの地上に生ける神の預言者がいることを知っていました。しかし、ユダヤ教徒として育った父のロイ・スワーツバーグにとって、その知識は初めからあったものではありません。

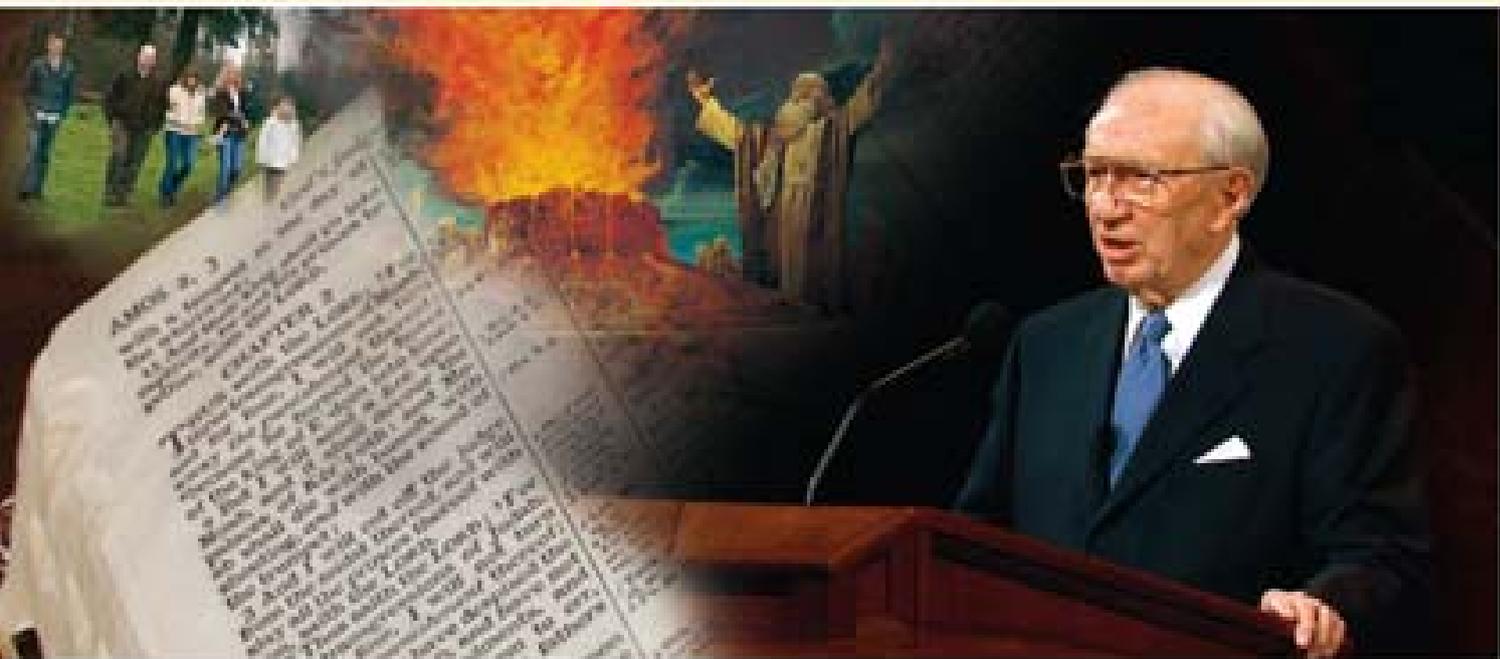
南アフリカの正統派ユダヤ教徒の家庭で育った父は、モーセやエリヤといった旧約聖書の預言者や、彼らが行った奇跡については知っていました。モーセが紅海を分けたことや、エリヤが天から火を呼び寄せたことを聞いたとき、父は彼らが民のためにそのような力を与えられたことに驚き、なぜ今日この地上には預言者がいないのかと思ったそうです。

父が預言者ジョセフ・スミスの名前を初めて耳にしたのは、バル・ミツバーの儀式(訳注——ユダヤ人の男の子が13歳になるときに行う成人式)を受けてすぐのことでした。当時、父はユダヤ人の祖父母と一緒に暮らしていました。母親はすで

に亡くなり、父親は再婚して末日聖徒の教会に加入していたのです。

ある日の午後、父の兄のマークが父と座って話をしていました。そのときマークは自分が末日聖徒イエス・キリスト教会に入ったことを父に伝えました。そして父にジョセフ・スミスと最初の示現について、また福音と預言者が地上に回復されたことについて話したのです。伯父の証に耳を傾けながら、父は伯父が正しいことを言っていると感じたそうです。父にはすでに天の御父と預言者についての信仰があったので、それは輝かしい知らせとなりました! 地上に預言者がいて、人は再び神と語るができるということです。父は、この話が真実であってほしいと自分が願っていることに気づきました。

伯父は父に証を述べた後、祈ってみるように勧めました。しかし、ユダヤ教の家庭で育った父は、聖地エルサレムの方向に向かって立ったままヘブライ語で祈っていました。伯父は、敬虔さを示すためにひざまずいて腕を組むと



# 預 言 者

いう末日聖徒の祈り方を教えました。父には初めての経験でした。父はひざまずいて、初めて天の御父に個人的な祈りをささげたのです。

父は預言者について聞いたことが正しいと感じました。また、祈った後にも良い気持ちがありました。それでも父はすぐに宣教師の話の聞こえを聞こうとしませんでした。

間もなく、父と伯父は義理の母の両親と住むことになりました。彼らも末日聖徒でした。日曜日には家族で安息日の集会に出席しましたが、父だけはユダヤ教の安息日を守るために毎週金曜日の夜と土曜日の朝にシナゴグ(訳注——ユダヤ教の教会堂)に通い続けました。

それでも、伯父と一緒にミュンヘンの活動に参加するようになり、南アフリカでセミナーのプログラムが始まると、それにも通いました。そこで父はモルモン書について学んだのです。ヘブライ語以外で初めて暗記した聖句はニューファイ第一書第3章7節でした。「わたしは行って、主に命じられたことを行います。主が命じられることには、それを成し遂げられるように主によって道が備えられており、それだけでなく、主は何の命令も人の子らに下されないことを承知しているからです。」

宣教師たちは週に1度、熱心に父を訪ねて来ました。しばらくすると、父はシナゴグでの集会だけでなく、聖餐会にも

出席するようになりました。そしてついに、イエス・キリストがメシヤであられるという証を得た父は、宣教師から福音の教えを学ぶことにしたのです。父は1973年のクリスマスの日にバプテスマを受けました。そのとき初めて救い主の降誕を祝ったのです。

真理に至った父の改宗談のおかげで、わたしはより大きな物の見方をすることができるようになりました。また、預言者についての父の証はわたし自身の証の一部となりました。今わたしは、自分が誇りとしているユダヤ人としての受け継ぎの象徴として、ダビデの星をかたどった小さなネックレスを身に着けています。それはまた、わたしが今持っている信仰の象徴でもあります。10代の少年だった父がはぐくんだ預言者についての信仰のおかげで、わたしも今同じような信仰に恵まれているからです。

かつてのモーセがそうだったように、今日、ゴードン・B・ヘンクレー大管長が預言者であることを知っています。そのことに心から感謝します! 天は確かに開かれていて、昔の時代と同じように、天の御父は今も啓示を通してわたしたちに御心を明らかにされるのです。■

「バアルの祭壇に立ち向かうエリヤ」セシエリ・ハースト、画。トランシー大聖堂の壁画「バアルの祭壇の崩壊」の複製。C.C.エドワーズ、画。アンダーセン、セシエリ

# 質疑応答

「福音の道にしっかりととどまれるよう、証<sup>あかし</sup>を強めるにはどうしたらよいでしょうか。」

## 『リアホナ』からの提案

**証**は、聖霊があなたに霊的な真理をお伝えになるときに強められます。生活の中に御霊<sup>みたま</sup>を招き入れる方法を幾つか紹介します。

**まず、効果的な聖文研究を毎日行う。**毎晩眠い目をこすりながら駆け足で15分の聖文勉強を終わらせるのではなく、キリストの言葉をよく味わうことが大切です。聖文を学び、深く考えるようになると、理解が深まって聖霊を感じるようになるでしょう。聖霊はあなたの証を強めてくださいます。

**御霊を常に感じられるようなふさわしさを保つ。**ふさわしくあれば、天の御父に喜んでいただけるような行動を御霊が促してくれます。また、御霊による慰めを受け、福音が真実であって天の御父とイエス・キリストがあなたを愛しておられることを確信できるようになります。毎週ふさわしい状態で聖餐を受けることで、常に御霊を感じられるでしょう。

**たとえ小さな罪でも見過ごさない。**例えば、うそをつかないこと、人の批判をしないこと、怒鳴ってしまって悪かったときようだいに謝ることで、罪はあなたを主の御霊から遠ざけます。自分の思いや行動を振り返り、必要を感じたら心

固い決意をもって  
聖文を学び  
深く考えるように  
してください。

聖霊が常に  
ともにおられるような  
ふさわしさを  
保ってください。

小さな罪でも  
謙遜に悔い改めるように  
してください。

自分の証<sup>あかし</sup>が  
何の上に築かれているのか  
考えてください。

頻繁に証をしてください。

から悔い改める習慣を身に付けてください。

**自分の証を吟味する時間を取る。**救い主やジョセフ・スミス、そしてモルモン書について、あなた自身の確固とした証がありますか。それとも、教会に行くのは友達に会うためでしょうか。教会の使命は人々をイエス・キリストのもとに導くことであるのを忘れないでください。キリストの岩の上にあなたの証を築いてください。「〔キリストは〕堅固な基で〔あられ〕、人がその上に基を築くならば、倒れることなどあり得ないからである。」(ヒラマン5:12)

**最後に、信じていることをほかの人に伝えることによって、自分の知識が真実であることを確認する。**証会だけでなく、家族や友人あるいは出会った人に対しても、御霊の促しを受けたら証を述べてください。そうすれば証が強められ、福音に根づいた生活を送りたいと願うようになるでしょう。どんなに強い証でも、ほうっておけば弱くなってしまいます。

しかし、福音の道にとどまるためには、証を得るだけではまだ不十分だということも忘れないでください。レーマン人たちが「二度と道を踏み外さなかった」のは(アルマ23:6)、彼らが証を得た後、主に帰依したからでした。聖文



## 読者からの提案

はわたしたちに、常に祈り、誘惑に陥らないようにと教えています(教義と聖約20:32-34参照)。証を得たり、主に帰依する心を強めたりするのに時間がかかっても落胆しないでください。聖霊の力を信頼していれば、強い確信は必ず芽生えます。



わたしは聖文を研究し、いつも祈ることによって証を得ました。でも、それだけですべてが終わったわけではありません。今も聖文

の研究と祈りと断食を続けています。そうすることで福音の新たな理解が加わり、狭くて細い道を進み続けることができます。わたしは、新たな理解は信じる力を強めてくれると思っています。福音の理解が深まるほど、さらに神の戒めに従い、福音に対してもっと忠実になることができます。

ジンバブエ, ビアトリス・C, 21歳



証を強めるには、生きていくうえで自分が福音を必要としているとまず自覚することが何よりも大切だと思います。教会が真実である

と証するほかの会員たちの模範も大きな助けになります。さらに、支部やワードの友達と福音について話し合い、彼らにとって福音がどのような意味を持っているのかを聞くこともできます。まずこれだけのことをしてから、信仰を強めたいという真の願望をもって日々に祈り求めるならば、主はきっとこたえてくださると思います。尽きることのない知恵と幸福

の源である福音を受け入れれば、主は確信と喜びを与えてくださるでしょう。

ウクライナ、マキシム・K、22歳

『神への務め』や『成長するわたし』に取り組むのも証を強める一つの方法です。教会の集会やミューチャルに毎回出席し、いつも証するようにしましょう。両親や教会指導者の言葉に耳を傾けてください。そうすれば御霊を感じ、自分が正しい選択をしているという確信を得ることができます。

フィリピン、ルソン、アールソン・N、20歳



証を得る過程で、そして証を得た後も、証などをつづる日記をつけましょう。霊的な経験を記録するのがです。教会で受けたレッスンや、お話を聞いて感じたことを記録してください。

そのときはささいなことに思えるものでも、自分にとって霊的に意味のあるものは何でも書き留めます。疑いを抱いたり霊的なスランプに陥ったりしたときは、記録しておいた一つ一つの経験を読んでください。あなたが立ち直るきっかけとなり、御霊の導きを得られるようになるでしょう。

アメリカ合衆国、バージニア州、ミーガン・J、17歳



祈りと毎日の聖文学習、神様の戒めを守ること、そしていつも神様に感謝することによって自分の証を強め、サタンに対する守りを堅固にすることができます。戒めを守っているとサタンに対抗する力が強くなるのを感じ、福音を通してこれまでに得たすべての良い経験を思い出すことができます。そして証が増し、悪に負けない強さを得て、この真のキリストの福音から離れることがなくなります。信仰は、小さな苗を育てるように養わなければならないことを常に覚えておきましょう。よく世話をすれば、元気に生長して強くなるのです。

ブラジル、サンパウロ、バルバラ・M、16歳

証は経験によって少しずつ強くなっていきます。一瞬にして証が得られるなどということはめったにありません。証は、教会で進んで奉仕する、戒め



「わたしたちを神に近づけないものは、

いかなるものであれ、わたしたちを神から遠ざけているのです。その中間はありません。霊性を落とすことなく犯せる小さな罪といった、中途半端なものは存在しません。だからこそわたしたちは、自分の証のかがり火が罪によって消されることのないように、悔い改め、毎日謙遜な祈りを通してキリストのみもとへ行かなければならないのです。

十二使徒定員会  
ジョセフ・B・ワースリン長老  
「証という霊のかがり火」  
『聖徒の道』  
1993年1月号、42

を守る、祈る、断食する、聖文を研究する、教会の集会に出席する、ほかの人の証に耳を傾けるといったことを通して強められます。これらを行っていると、靈感が与えられる瞬間を経験し、証をはぐくんでいくことができます。そのほか、ためらわずに証を伝えることも大切です。

グアテマラ・グアテマラシティー南伝道部

アルベルト・アキノ長老、21歳



時々疑問を感じることもありましたが、祈りの力と聖霊の力のおかげで、すべての人が確かに神の子供であるという自分の証を強めていくことができました。サタンは躍起になっ

てわたしたちの証を揺るがそうとします。そのような誘惑を克服し、これまでも主が確かに助けてくださったことを思い出せるよう心を込めて祈ってください。主はいつもそばにいて耳を傾け、助けてくださいます。

アメリカ合衆国、ユタ州、セイリン・S、17歳

本誌の答えは、問題解決の一助となるように意図されたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

## 質問

「祈りの度に同じことを言ってしまいます。単なる繰り返しでなく、祈りをもっと有意義なものにするにはどうしたらよいでしょうか。」

### あなたの意見を聞かせてください

氏名、生年月日、ワードおよびステーク(または支部および地方部)を明記のうえ、写真を添えて(写真掲載に対するご両親の承諾書とともに)、下記まで郵送か電子メールでお送りください。

あて先——

Liahona, Questions & Answers 1/08  
50 E. North Temple St., Rm. 2420  
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA  
電子メールアドレス——

liahona@ldschurch.org

2008年1月15日必着で送付してください。■

## わたしがもらった人生最高の贈り物

コンスエロ・コナーサ・レオーネ

**ク**リスマスのシーズンを迎えて、贈り物やカードのことを考えていると、急にある問いが心に浮かびました。「これまでクリスマスにもらったすべての贈り物の中で、自分の人生に特に大きな影響を与えたものがあるだろうか。」すると、1963年12月のことを思い出しました。

両親は外出し、わたしは独りで家にいました。当時、わたしは若い教師でした。学校が終わって休暇に入り、もうすぐクリスマスです。何か読む本がないかと探してみましたが、家にある本はすでに全部読んでしまっていました。そこで、よく本を貸してくれた隣人に会いに行くことにしました。彼女の家には良い本がたくさんあったのです。すると今回は、外国人の二人の若い男性が置いて行ったという本を勧められました。

「あなたの意見を聞かせて。おもしろそうな内容よ」と彼女は言いました。

しかし、その若い男の人たちが宣教師だと聞いて、その本へのわたしの興味は急に冷めてしまいました。当時、わたしは宗教に関係のあるものには関心がなかったのです。でも、とにかくその本を借りることにしました。

別れ際に彼女はこう言いました。「本の中に宣教師が書いた短いメモがあるわ。この本を読む前に、神様にお祈りしてくださいって。」

その日は土曜日で雨が降っていました。特に予定もなかったのですが、その「おもしろそうな」本を読むことにしました。ページを開くと、

宣教師が書いたメモがありました。本をベッドの上に置き、ひざまずいて、自分なりの言葉で神に祈りをささげました。祈ったのは初めてのことでした。

読み始めると、わたしは物語に引き込まれてしまいました。若いニーファイがこれほど揺るぎない信仰を行使できたのはどうしてだろうか。そのようなことが一体自分にできるだろうかと思いました。モーサヤ書を読みながら、ベニヤミン王の言葉に力づけられました。そのときわたしは、今読んでいる本が、それから40年以上にわたって自分の大好きな本になるとは夢にも思いませんでした。

その40年の間、モルモン書は大きな心の支えとなり、慰めと力を与えてくれました。わたしはアルゼンチンにあるトゥクマンという小さ

な支部でバプテスマを受けましたが、この支部でお話やレッスンをするとき、モルモン書の中でたくさんの重要な考えを見つけ、それらを人々と分かち合ってきました。改宗して2年後に専任宣教師として奉仕しましたが、同僚とわたしで求道者にモルモン書を渡すとき、わたしも小さな紙にメモを書いて、読む前にお祈りをするように勧めました。

それから長い年月がたちましたが、これまでもらった中で最も貴重なあのクリスマスプレゼントと、それをくれたあの女性を忘れることは決してできません。彼女の顔はほとんど覚えていません。マリナという名前がころうじて記憶に残っているだけです。ありがとう、マリナ。永遠に感謝しています。■

そのときわたしは、今読んでいる本が、それから40年以上にわたって自分の大好きな本になるとは夢にも思いませんでした。



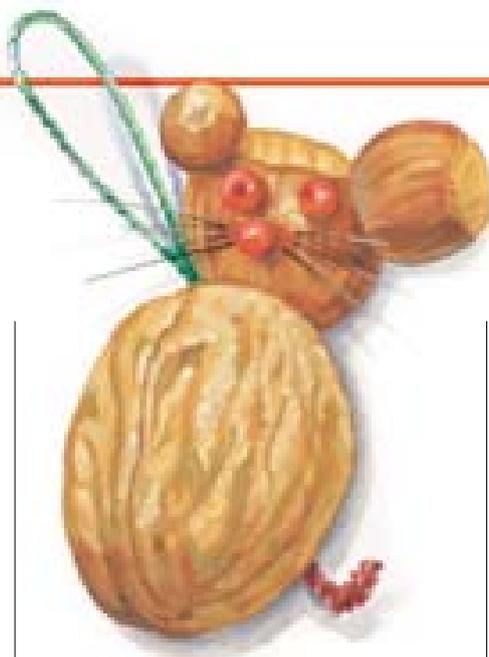
## 母からの クリスマスプレゼント

ベティ・レバロン・モスタート

**わ** たしが子供だった1950年代から1960年代のことです。我が家のクリスマスは豪華なものではありませんでしたが、靴下だけは必ず用意していました。わたしたち子供はクリスマスの靴下をとて楽しみにしていたので、大きくなって結婚し、自分の子供ができてからも両親の家でその慣習を続けました。しかし、たくさんのプレゼントを買い、それらを何十足もの靴下に詰める作業は、年を重ねた両親には負担になってきました。特に母は重い関節リウマチを患い、手足を動かしたり力を入れたりすることが困難になっていました。

そこで、わたしはその作業を引き継ぐことを申し出ました。毎年この時期には親戚一同で合同家庭の夕べを行い、クリスマスしんせきの物語の劇をしてから靴下の中のプレゼントを開けることになっていました。小さな子供たちの母親であり、忙しい生活の中でいろいろな出来事に追われていたわたしにとって、この靴下の準備はとても疲れる作業でした。当日、わたしが一つ一つ準備したギンガムチェックのクリスマスの靴下からみんなが無造作に中味を取り出すのを見ると、少しがっかりしてしまいました。

当然ながら、わたしの靴下には自分で入れておいたキャンディーケーキ(訳注——杖の形をしたキャンディー)とみかんしか入っていませんでした。ところが、全部取り出そうと靴下を逆さまにして振ってみると、くるととヘーゼルナッツでできた、薄汚れた小さいネズ



ミと一緒に出てきました。耳の大きさは左右ふぞろいで、ひげも曲がっていました。尻尾は短すぎるし、ツリーにかける輪は中心からずれていました。わたしは、幼稚園児が作ったようなものが何でわたしの靴下に入っているのかと困惑してしまいました。

ふと、部屋の向こう側の車いすに座っている母がこちらを見ているのに気づきました。母は、細く、曲がった指でわたしを手招きしました。

「クリスマスの靴下に何か入れたくてね」と母は言いました。「扶助協会しんせきで小さなネズミを作ったんだよ。どれもとてもかわかったのよ。」

涙で目を潤ませ、優しい声を震わせながら母は続けました。

「指が思うように動かなくて、一つしか作れなかったんだよ。不恰好だけど、おまえなら気にしないで受け取ってくれると思ってね。」

わたしは手の中にあるネズミをもう一度よく見ました。母の言うとおりの、わたしにはちっとも気になりませんでした。それどころか、母の作ってくれた、薄汚れた小さなネズミは、その年のクリスマスでいちばん大切な宝物になりました。

20年以上もの間、わたしは毎年、ティッシュペーパーにくるんである不恰好なネズミを丁寧に取り出し、ツリーの

枝にそっとかけています。母が不自由な手で作ってくれたネズミです。大好きだった母が亡くなってから数年がたちますが、彼女がくれたクリスマスのネズミは、二つの深遠な真理を思い起こさせてくれます。

一つは、わたしがネズミの曲がった耳を気にせず、作品に込めた愛と努力を感じ取ることができると信じてくれた母がわたしに敬意を示してくれたことです。もう一つは、不完全で死すべき人間であるわたしが、ちっぽけなネズミに美しさを見いだすことができるなら、わたしたちの天の御父はなおさら完全に、わたしたちの不完全な努力を受け入れ、わたしたちの示す善意を理解してくださるということです。

ほかの人に与えるため、また御父にささげるために最善を尽くすとき、それは立派な贈り物となるだけでなく、計り知れない価値を持つのだということをわたしは知っています。■

## 忘れられない クリスマス

ジェリー・O・トンプソン

**妻** と結婚してまだ2年足らずのときでした。生まれたばかりの赤ん坊を抱えたわたしたちは、典型的な学生結婚の家族の例に漏れず、家計のやり繰りに苦労する日々を送っていました。

卒業はまだ数年先でしたが、わたしたちはクリスマスをできるだけ楽しく過ごそうと思っていました。わたしはアルバイトを掛け持ちしており、妻のリサは秘書として働いていました。あまり余裕はありませんでしたが、幸せな日々でした。

クリスマスの数か月前、ホームティーチングで割り当てられたばかりの幾つかの家族と親しくなりましたが、中でもある家族が特に気になりました。大きな不幸を経験して間もなかったからです。事故に見舞われ、子供のうちの二人が亡くなり、父親もまだ回復していませんでした。しかも母親は重い病気にかかり、身体的な障害が残っていました。こうした試練の中でもその家族は非常に前向きで御霊<sup>みたま</sup>を失わず、戒めを守る姿は周りの人への模範となっていました。

12月のホームティーチングで彼らの家を訪ねたとき、クリスマスツリーがないことに気づきました。子供たちは寂しいクリスマスを送るのだらうと思うと悲しくなりました。その家族が肉体的にも霊的にも、そして経済的にも苦しんでいることを知っていたわたしと妻は、彼らのために何かしようと決心しました。

わたしたちはクリスマスツリーを買うお金を貯金していました。そこで、クリスマスイブの日に、そのお金で足りるいちばん大きなツリーを買いに行

き、きれいに包装して、秘密のクリスマスプレゼントとして彼らの家にこっそり置いて来ることにしました。ツリーを持って到着したとき、都合よく家にはだれもいませんでした。帰り道、わたしたちは、帰宅したあの家族がツリーを見つけて喜ぶ姿を想像しました。払った犠牲はわずかでしたが、かつて感じたことのない平安と喜びに満たされたすばらしいクリスマスとなりました。

アパートへ戻ると、驚いたことに、玄関の前にはわたしたちへのクリスマスプレゼントが置いてありました。それ

アパートへ  
戻ると、  
驚いたことに、  
玄関の前には  
わたしたちへの  
クリスマスプレゼントが  
置いてありました。



は美しく飾られたクリスマスツリーでした！ 経済的に苦しいわたしたちに届けられたこの匿名の愛の贈り物を見て、妻は涙を流しました。

後で分かったのですが、この贈り物はわたしたちがツリーを届けたその家族からのものでした。試練と困難の日々を送りながらも、この家族は周りの人々を喜ばせようと努力していたのです。その年、わたしたちの心はほんとうのクリスマスの精神で満たされました。それは決して忘れることのできないクリスマスとなりました。■

## 御父はほんとうに わたしを 愛しておられた のでしょうか？

キャロル・C・ワッツ

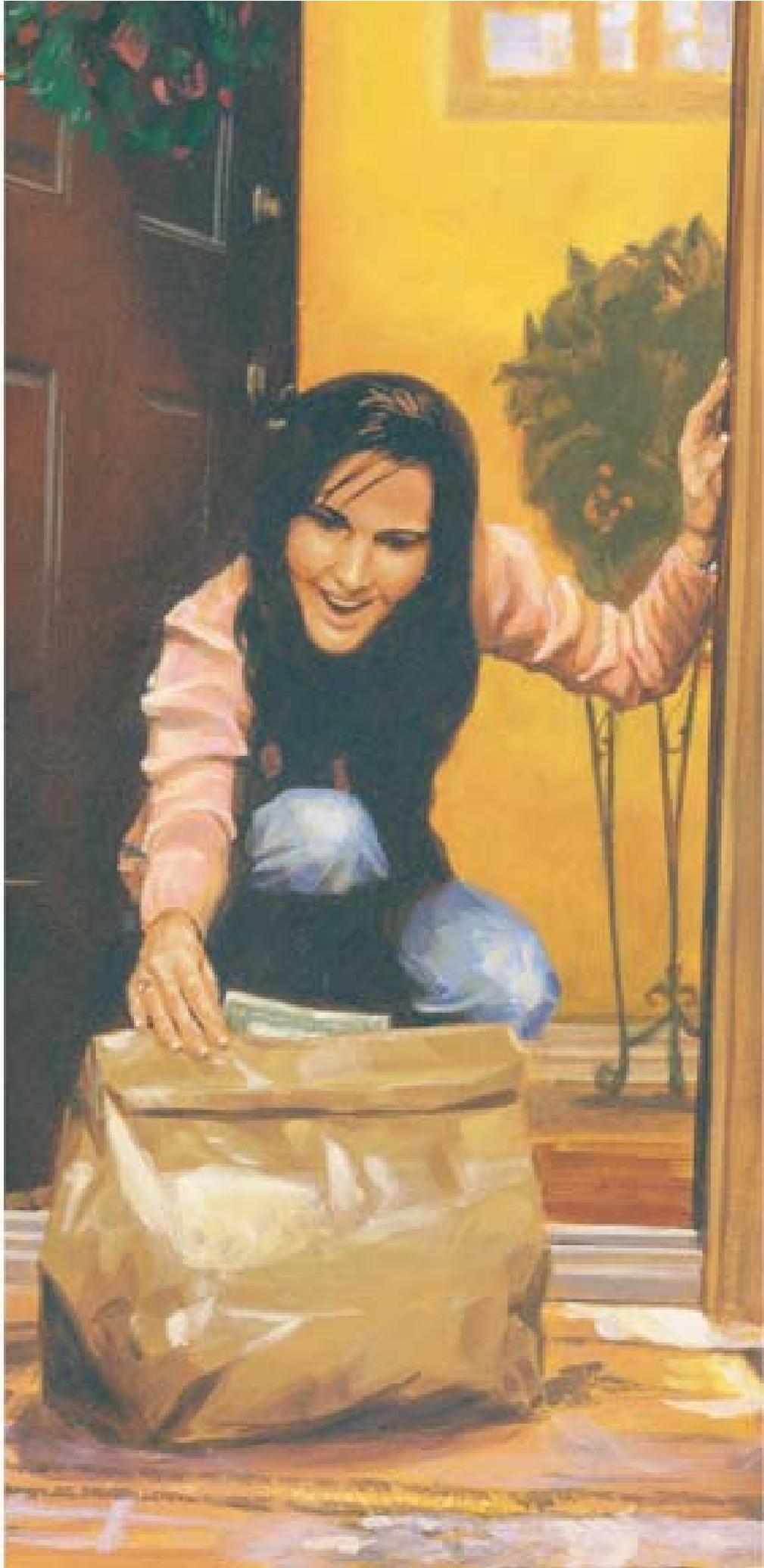
**普**段ならクリスマスの音楽や活動、楽しい雰囲気が大好きなわたしですが、この年のクリスマスは違いました。家族で新しい町へ引っ越したからです。引っ越しは仕方のないことだと分かっていましたが、わたしは居心地が悪く、場違いな所にいると感じていました。

わたしは夫のロブに不満をぶつけました。結婚して以来、わたしたちは何度か引っ越しをしており、わたしが不安な気持ちでいることを夫は知っていました。夫はこう尋ねました。「天の御父がどれほど君を愛しておられるか分かるかい？」

「もちろんよ」とわたしは答えました。

「でもね」と夫は続けました。「心の底からそう感じているかい？」

そうではないことに気づいたわたし



の頬に涙がこぼれました。覚えているかぎり、わたしはいつも周りの人の方が自分より愛されていると感じていたからです。夫は天の御父に祈り、わたしに対する御父の愛を感じさせていただけよう願ひ求めることを勧めてくれました。その晩、わたしはそのとおりにしました。

数日後、わたしは食料品を買いに行きました。いつも買う物のほかに、牛のひき肉とローストビーフ用の肉を買う予定でした。しかし、そこで肉を買うお金がないことに気づきました。給料が入るのは来週です。それに、郊外に住む親戚とのホームパーティーへ行くために、車のガソリン代も必要でした。

明日食べる物が無いほど困っていたわけではありませんが、わたしは天の御父にこの状況について話し、できることなら必要な物を買えるように助けてくださいと祈りました。

次の日の夕方、夕食の支度をしていると玄関のベルが鳴りました。ドアを開けると、戸口に食料品などを入れる大きな紙袋が置いてあるのが目に入りました。かがんで袋に手を伸ばすと、その紙袋の口が折ってあり、そこに20ドル紙幣がホッチキスで留めてありました。袋の側面には「メリークリスマス!」とクレヨンで書いてありました。

袋の中には冷凍ひき肉が数パックとステーキ用の肉が2、3パック入ってい

ました。驚きのあまりわたしは言葉を失ってしまいました。次の給料日まで手もとにお金がないことはだれにも話していません。夫さえ知らなかったのです。驚くほど霊的に敏感な人がいて、必要だった肉だけでなくガソリン代とほぼ同額のお金を届けてくれたなんて、そんなことがあり得るのでしょうか。断食証会あかしのとき、贈り主が会衆の中にいることを期待しながら、わたしはこのプレゼントへの感謝の気持ちを伝えました。

この経験はわたしにとっての転機となりました。天の御父はわたしの祈りにこたえてくださいました。御父は確かにわたしを愛しておられ、わたしの必要を御存じであり、それを目に見える形で教えてくださいました。それ以来、わたしは御霊のささやきに耳を傾ける力を強められるように努めています。今では、主がほかの人の祈りにこたえられるときに、わたしを使ってくださいるようにとしばしば祈るようになりました。■

## 新兵

ヘニー・ラスムッセン

わたしは夫の回顧録を開き、半世紀以上も前に夫が教会を見いだしたときの話を読み返しました。

「1951年、20歳のとき、わたしは〔デンマークの〕クロンボー城にある下士官学校に所属していた。クリスマスの晩、城を囲む堤防の上で見張りの任務についていた。ふと立ち止まり、星を見上げると、空と地の間にはそれまでに考えていた以上のものが存在すると感じた。言い換えると、以前にはまったく信じていなかった神の存在を信じ

るようになったのである。両親には宗教心のかけらもなかった。彼らもわたしも教会へ行くのは、洗礼や堅信礼、結婚式と葬式のときだけだった。

数か月後、軍曹になったわたしは自分の部隊を持ち、44人の新兵が配属になった。正確に言うと、配属になったのは43人と1人だった。この1人は残りの43人とは非常に異なって見えた。ほかの新兵と違った印象を受けるのはなぜかと尋ねると、この新兵はわたしの部屋で今晩話すと聞いた。

それから5日間、その新兵は毎晩わたしに末日聖徒イエス・キリスト教会について話してくれた。6日目の日曜日、わたしは教会へ行った。それが新しい人生の始まりとなった。

わたしは教会に大きな魅力を感じるようになった。教会員とも少しずつ知り合いになっていった。それで分かったのだが、あの新兵に感じた特別な印象は一般的な教会員の多くが持っているものと同じだったのだ。

わたしは教会が真実であること、つまりこれが主の教会であることを確信するようになりバプテスマを受けた。ほんとうにすばらしい日だった。」

1998年に亡くなった夫のオルラが、これらの言葉を回顧録に書き残してくれたことに感謝しています。ずっと前のあのクリスマスの晩、夫は神がほんとうに生きておられることを初めて感じました。そして、あの新兵との会話のおかげで、夫とわたしは出会い、神殿で結び固めを受け、5人の子供を持ち、さらに孫やひ孫がわたしたちの家族に加わったのです。これまで教会で実りある生活を送り、多くの祝福を受けました。わたしは何年も前のクリスマスの夜と、夫が出会ったデンマークの新兵に感謝しています。■

夕 食の支度をしていると玄関のベルが鳴りました。ドアを開けると、戸口に食料品などを入れる大きな紙袋が置いてあるのが目に入りました。

### 教えるために有益な道具

若い女性の会長として『リアホナ』の記事を活用しています。特にポスターは重宝しています。青少年が福音の原則について考え、日々の生活に応用する助けになるからです。『リアホナ』にある話や物語をレッスンなどで使っています。文化、人種、性別が違っても、同じ証と真の福音を共有する人々が実際に経験した事柄が載っているからです。

エクアドル、ジェシカ・モレイラ・デ・マシアス

### 「リアホナ」をいつも手もとに

わたしがビショップだったときのある土曜日、家族と海辺に出かけようと準備をしているところだったのですが、行くのをやめるようにという靈感を受けました。どうしてと尋ねる家族に、わたしはある夫婦を訪問しなければならぬから一緒に行けなくなったと答えました。理由の分からないまま部屋に戻って祈ってみると、『リアホナ』を持って行くべきだと感じました。その夫婦に何を伝えればよいのか分からないまま出かけましたが、彼らの家に着いたときに永遠の結婚について話すべきだと感じました。

後になって、神がわたしを遣わされたのだとご主人から聞きました。わたしが来るまで、二人は夫婦げんかをしてきたからです。そのとき彼らは、わたしが話すべきだと感じたメッセージ

を必要としていたのです。

問題を解決するためにいつ『リアホナ』が必要になるか分からないので、家庭に置いておくことはとても大切です。我が家にいつも『リアホナ』があることに感謝します。『リアホナ』を読み、そこにある教えを生活に応用しようと努めるとき、御霊をより強く感じることができます。

ブラジル、マルシアル・F・リマ

### 独りではない

『リアホナ』はほんとうに大きな助けとなっています。読む度に、自分が日々になすべきことをきちんと見定めることができます。『リアホナ』は、試練に立ち向かう勇気を与えてくれます。また、八方ふさがりだと感じるときに希望を与え、問題を抱えているとき、いつもわたしの思いを照らしてくれます。夫と二人で家庭の夕べのレッスンを準備するときにも欠かせません。記事や話はどれも霊性を高めてくれますし、ほかの会員たちが自分と似た経験をしていることを知ると力づけられます。『リアホナ』を読む度に、自分が独りではないと感じます。天の御父はわたしを愛しておられます。そしてそれを『リアホナ』を通して教えてくださるのです。

フィリピン、バーナデット・サント・ドミンゴ

### 良いサマリヤ人

バプテスマを受けてすぐ、長く教会に集っている会員の方が1999年から2002年までの『リアホナ』をすべてわたしに譲ってくれました。それ以来、ずっと定期購読しています。今は、可能なかぎりわたしも『リアホナ』を人に贈ることにしています。

ジョン・W・ウェルチによる「良いサマリヤ人——忘れられた象徴」(2007年2月号)という記事に感銘を受けました。

人間にとって最も大切なものは知識と思いやりと奉仕であると教えられました。

ブラジル、ジナルバ・ベドロ・ダ・シウバ

### 主の業は前進する

今わたしは支部宣教師と若い女性の第一顧問という二つの召しを受けています。『リアホナ』は青少年のためにレッスンを準備したり、活動をしたりするのに役立っています。教会の会員でない友人たちにも『リアホナ』をプレゼントしましたが、皆、喜んで読んでくれました。主の業がすべての国民、部族の中で前進していることをわたしは知っています。

ウクライナ、ナターシャ・バベンコ



### 来月号で特集します

1月から、教会の成人会員は扶助協会とメルキゼデク神権の集会で預言者ジョセフ・スミスの教えを学びます。1月号の『リアホナ』では、預言者の生涯で起こった重要な出来事を探り上げ、『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』が預言者の教えのまとめとしていかに信頼できるものであるかを解説します。

1月号の『リアホナ』では、預言者の生涯で起こった重要な出来事を探り上げ、『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』が預言者の教えのまとめとしていかに信頼できるものであるかを解説します。



### 「その名は靈妙ととなえられる」サイモン・デュイー画

「ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、ひとりの男の子がわれわれに与えられた。まつりごとはその肩にあり、その名は、『靈妙なる議士、大能の神、とこしえの父、平和の君』ととなえられる。」  
(イザヤ9:6。2ニーフアイ19:6も参照)



**ク** リスマスには贈り物をします。  
この習慣を通して、わたしたちは  
お生まれになったばかりの御子キリストに  
博士たちがささげた贈り物と、  
キリストがすべての人に下さった贈り物を  
思い起こすことができます。  
「最高のクリスマスプレゼント」8ページ参照